

天理大学ふるさと会報

2012

Vol. 59

全面リニューアル！
読んで楽しい会報に！



特集
1

東日本大震災の
被災地で復興に
取り組む会員

特集
2

ホーム
カミングデー
賑やかに！

平成 24 年・2012 年 2 月、母校は「国際参加プロジェクト」をカンボジアで実施。
学生は小学校で紙芝居、絵本の読み聞かせなどを行った。

NEW

課外活動
文化系のクラブ・サークル

NEW

支部総会に
おじゃましました！

NEW

天理大学の歩み
「母校天理大学と海外布教」

NEW

懐かしの写真館
一号棟

NEW

紹介！
会員の趣味・お店

NEW

気軽に、知的に
アカデミック・カフェ

NEW

クロスワード
パズル

抽選でクオカード進呈！



《一号棟》

古すぎて「懐かしい」を通り越しているかもしれませんが、基本的に、建学の頃から少しずつ現在へと歩を進めていきたいと思います。

一号棟は、母校で一番古い建物で大正15年（1926年）8月に竣工。多くの天理教ようぼく・信者の力により整備された敷地に建ち当時は、外国語学校本館と称されていました。京都帝国大学教授だった武田五一氏と、その弟子の岩崎平太郎氏の設計とされています（『近代奈良の建築家 岩崎平太郎の仕事』）。

竣工当時は、奈良県ではじめての鉄筋コンクリート造り、また、洋館というのも珍しかったようで、見物に訪れる人も多かったようです。

また、当初、教室の他に現在の「天理図書館」の母体となる図書館も3階に設けられていました（昭和5年・1930年には現在の図書館が竣工）。

上記の写真は、竣工時の大正15年（1926年）のもので、右下の写真は現在のものです。



CONTENTS

NEW 懐かしの写真館

グラビア	2
会長あいさつ／学長あいさつ	4
平成24年度ふるさと会理事会・評議員会報告 新理事・支部長紹介	5

特集① 東日本大震災の被災地で 復興支援に取り組む会員	6
---	---

特集② ホームカミングデー、 賑やかに！	10
--------------------------------------	----

各界で活躍する会員	12
-----------------	----

NEW アカデミック・カフェ	14
----------------------	----

NEW 支部総会におじゃましました！	16
--------------------------	----

NEW 紹介！ 会員の趣味・お店	18
------------------------	----

NEW 天理大学の歩み 天理大学ふるさと会顧問 森井敏晴	20
---------------------------------------	----

旧師から「思い出あれこれ」 飯田 照明 先生	21
---------------------------------	----

母校ニュース	22
--------------	----

原稿募集	25
------------	----

平成24年度 母校着任教員紹介 出版物の紹介	26
---------------------------------	----

ふるさと会海外研修基金 平成23年度海外研修報告	28
-----------------------------------	----

NEW 課外活動 体育系／文化系	31
---------------------------	----

会員からの情報、会員への情報	39
----------------------	----

支部だより	41
-------------	----

クラス会だより	46
---------------	----

2013(平成25)年度天理大学入学試験について	54
--------------------------------	----

平成23年度進路状況と進路就職支援	56
-------------------------	----

ふるさと会選抜入学者へのお祝い金授与	57
--------------------------	----

ふるさと会選抜日程	58
-----------------	----

ふるさと会奨学基金募金状況一覧(支部別)	59
----------------------------	----

ふるさと会奨学基金募金者芳名録	59
-----------------------	----

本部役員名簿・本部日誌	61
-------------------	----

決算報告、編集後記	62
-----------------	----

NEW クロスワードパズル 住所不明者一覧	63
--------------------------------	----

支部一覧	63
------------	----



▲合気道 全日本学生で優勝

10月、天理大学武道館で行われた第42回全日本学生合気道競技大会の短刀乱取競技男子個人で体育学科4年の水畑智晴君が優勝。



▲ラグビー大学選手権決勝、惜しくも準V

1月、国立競技場で行われた第48回全国大学ラグビーフットボール選手権大会決勝で惜しくも敗れ、準優勝。



◀バスケット男子 全日本学生選手権で3位の快挙

11月、国立代々木競技場第二体育館などで行われた第63回全日本大学バスケットボール選手権大会でバスケットボール部男子が過去最高位の3位に。



▲柔道2選手が欧州シニア大会で金メダル獲得

1月、ベルギー国際大会男子81キロ級で体育学科2年の丸山剛毅君が、2月にはオーストリアで行われたワールドカップ・オーバーヴァルト73キロ級で体育学科3年の大野将平君がそれぞれ金メダルを獲得。

◀ホッケー部男子 全日本大学王座3年ぶり優勝

7月、親里ホッケー場などで行われた第30回全日本大学ホッケー王座決定戦でホッケー部男子が3年ぶり21度目の王座に返り咲いた。

▶雅楽部が海外公演
9月、雅楽部は第22回海外公演（欧州公演）を行った。アムステルダム音楽院、日独交流150年式典などで舞楽を披露した。



▲ロンドン大学SOASとの学术交流協定締結

8月、ロンドン大学SOAS（アジア・アフリカ学院）との間で、学术交流協定を締結。今後、両校間でさまざまな学術・教育交流を展開。



▲「天理わくわくショップ」を開催

10月、社会福祉専攻と天理市自立支援協議会がてんだりーcolorsにて、市内の障害者支援事業所産品を販売。



▲中国語劇台湾公演を開催

12月、中国語専攻と中国語コースの学生20人が中国文化大学で、天理大学語劇第11回記念台湾公演を開催した。



▲ESSが五外大英語弁論大会で3連覇！！

12月、第39回五外大英語弁論大会で地域文化学科1年・吉田研登君、英米語専攻1年・松元丈君、上野貴大君が団体賞で3年連続優勝を果たした。

母校への感謝を、 形や行動で表しましょう

本年4月に行われた理事会で、任期満了にともない会長人事が諮られ、会長の任を続けて務めるようご命を頂きました。ふるさと会活動のさらなる充実・発展を目指し、微力ながら精いっぱい務める覚悟でございます。皆さま方の一層のお力添えを賜りたく、心よりお願い申し上げます。

母校天理大学は改革3年目の本年度、866人の新生を迎え、キャンパスは若き力で活気にあふれ、学生はそれぞれ、学業に、クラブに、その徳分を伸ばすべく励み、青春を謳歌しているようです。

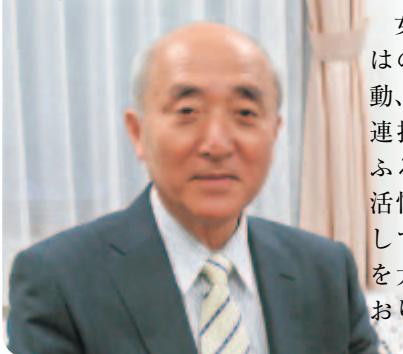
さて、毎年開催の運びとなったホームカミングデーですが、本年も大学祭期間中の11月3日に開催されます。昨年は約250人の会員の参加で盛り上がり、懇親会では席が足りないほどでした。今年は卒業生による余興なども予定しております。ぜひ、ご参加いただき、母校の「今」を体感してください。

次に、『ふるさと会（同窓会）選抜』による新生は本年度6人で、過日お祝い金を渡しました。国際学部だけではなく他学部にも適用を拡大してほしいとの声もありますが、まず国際学部で定員を充足させたいと思います。広く受験を呼びかけていただきますよう、お願いいたします。

そして、この選抜による新生へお祝い金を渡すために奨学基金を設立し、平成21年度から5年間と仕切って1億円を目標に募金活動に取り組んでいますが、4年目の現在、いまだ目標額にはほど遠い状況です。支部長はじめ理事・評議員の皆さま方には大変ご苦勞いただいておりますが、引き続き今後もしっかりお願いいたします。

「天理大学で学んで良かった」という喜び、学んだことが自己形成の基礎となっていることなど、母校で過ごされた時間はみなさまの宝物だと思います。母校への感謝の気持ちの発露としてお心寄せいただきますよう、また、全会員の真心を結集し各支部の目標額の達成を目指し、さらなるお力添えを賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、会組織充実・強化の一環として本年度から、組織担当に「女子部」を設けることが理事・評議員会で承認されました。



女子会員ならではのアイデアや活動、そして会員の連携・強化により、ふるさと会活動の活性化に力を発揮して下さることを大いに期待しております。

創立90周年・100周年に向かう 本学の「国際性」発揚を求めて

「国際化」「グローバル化」の波が我が国に押し寄せて久しいなか、教育界においても、その対応や取り組みに試行錯誤を繰り返しています。本学の建学の趣旨の上からは、いつの時代にあっても、その時々国際情勢、社会状況に相応しいあり方、時には世の風潮に流されない確固たる信念等を再確認する機会が必要です。

本学卒業生が社会から高い評価を受けているものは、語学力等に加えて、この天理の環境でじっくりと培われた人間性、つまり「天理スピリット」であります。それは、定めた目標に向かって不断の努力を重ね、機を捉えて果敢に挑戦していく精神。人のために祈り、尽くす心。そして、陽気ぐらし世界を目指す熱い使命感である、と説明できると思います。海外留学や研修を通して磨かれる「国際性」は、この天理スピリットに不可分な要素です。これは国際学部に限らず、これからの国際社会で活躍し得る資質を身につけるうえに、人間学部や文学部、さらに体育学部の学生にも求められるものです。

昨年、新たにロシア国立サハリン大学、ロンドン大学、そしてブルネイ・ダルサラーム大学と協定を結び、現在、海外32の大学とパリ、ニューヨークの2分校との交流を持つ本学ですが、今後もさらに多くの学生が海外で学ぶ機会を増やしたいと思います。そのためには、天理教のネットワークも十分に活用し、伝道庁や出張所など、天理教の海外拠点のある地域での人脈、情報を活かし、新たな協定校の開拓を進めていきたいと考えています。

また、本学キャンパスには常に世界各地からの留学生の姿があり、天理にしながら国際性を磨くことも十分に可能です。その雰囲気を一層醸し出す上から、留学生が天理の宗教的、歴史的な環境をじっくりと味わいながら学べるようなあり方を、ハード・ソフトの両面から再検討していく必要性も感じています。

本学は3年後の2015年に創立90周年を迎えます。この節目に向かって、本学が抱える様々な課題や、次なる創立100周年への構想などを検討し、実施する委員会を立ち上げました。本学の国際性の発揚について、

同委員会や分科会で具体的に話し合っていく予定です。

このような本学の動きを進めるうえに、今後ともふるさと会の皆様方との一層の連携を深めたく、ご協力をお願い致します。



平成24年度ふるさと会理事会・評議員会報告

■日 時：平成24年4月27日 14:30～16:45 / ■場 所：ふるさと会館 会議室

■出席者：理事38人、会本部役員11人、計49人。続く理事・評議員会は計75人。

■理事会：評議員会と議事が重複するため会長人事のみ。吉川萬太郎会長の再任を拍手承認。

■理事・評議員会：

・会議に先立ち、西和田ヤスハ常任理事ら物故者に黙祷。

○平成23年度会本部活動報告

総務部、組織部、広報部より、各種会議、組織、会友・会員、会報などの活動について報告。

○議事

・「平成23年度事業報告」…上記の活動報告をもって事業報告とする。了承

・「平成23年度決算報告」（会計監査報告後）…了承（本誌62ページ）

・「平成24年度活動方針（案）」…以下、承認

・「組織の充実強化」…学科・クラブの全体同窓会への郵送費補助、女子部の活動に期待。

・「会友活動への支援」…従来どおり、大学祭、顕彰、信仰活動への支援を行う。

・「母校の未来とふるさと会活動」…ふるさと会選抜への呼びかけ、就職斡旋などに尽力。

・「母校の教学に対する支援計画の推進」…「建学の精神」に基づくカリキュラムの作成、海外に雄飛する荒木棟梁の育成について、常任理事会で相談のうえ考えていきたい。

・「天理大学ふるさと会奨学金事業の推進」…目標額の25%超、非常に厳しい。

・「平成24年度予算（案）」…承認

・「平成24、25年度の役員について」…吉川萬太郎会長が再任。役員人事は会長一任。

・「天理大学ふるさと会奨学基金事業」…会員数が多い近畿地区の関係実務者会議などを検討。

・「母校創立90周年記念事業」…写真集を作成する。基本はCD、一部印刷も予定。

・「その他 会員への推薦」…大分、神奈川両支部長から会員推薦があり承認。



新理事、支部長の紹介

《新常任理事》



■吉村 善一（大16宗）

- ・中国・四国地区定数枠
久保知明常任理事の後任
- ・平成22年8月より山口支部長
- ・天理教佐波分教会長



■小池 京子（大16西）

- ・会長推薦
西和田ヤスハ理事の後任
- ・平成11年4月より神奈川支部
婦人部幹事
- ・平成24年4月より神奈川支部
評議員

《新支部長》

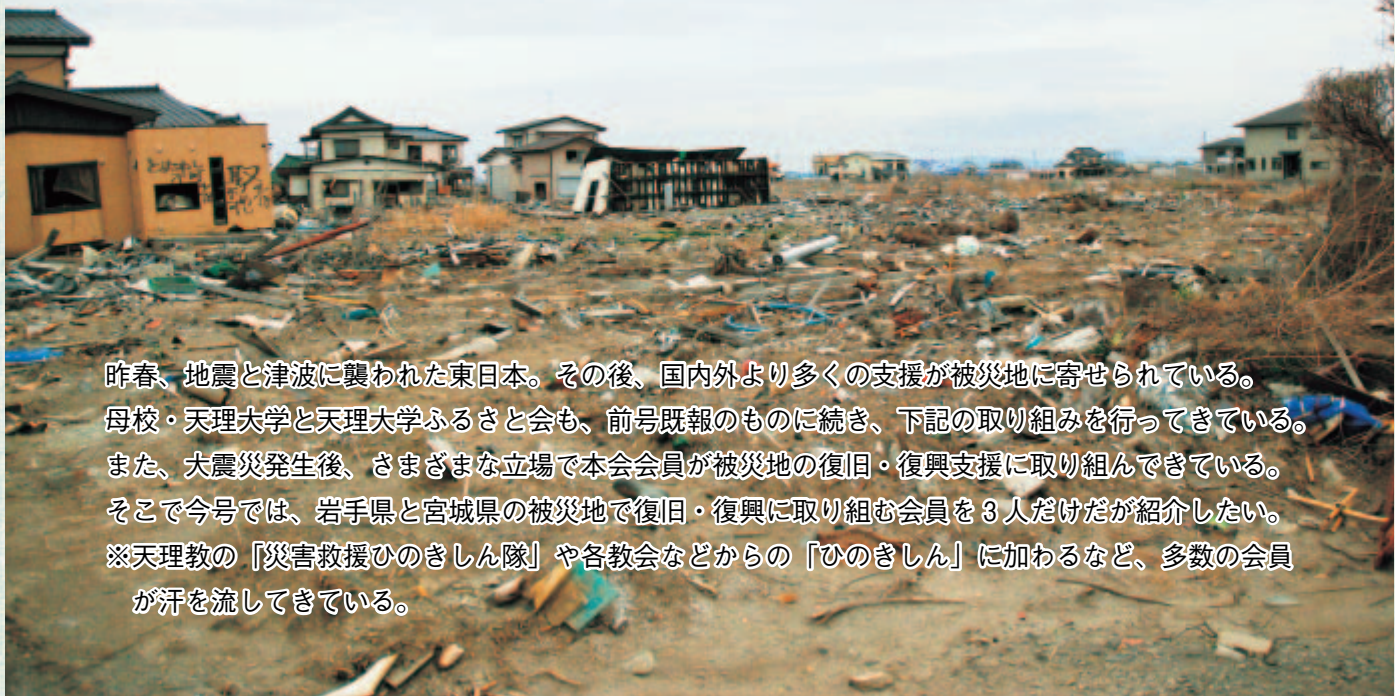
東 京 谷 正雄（大18印）
山 梨 久保田真五（大20宗）
兵 庫 中島 紀男（大12宗）
愛 媛 入口 松司（大26宗）

以上の4氏が新しく支部長に就任されました。今後のご活躍と支部のご発展を祈念いたします。

○訂正とお詫び

前号で、吉澤理事について「新津分教会長」と記しましたが、前会長でした。お詫びして訂正いたします。

東日本大震災の被災地で 復興支援に取り組む会員



昨春、地震と津波に襲われた東日本。その後、国内外より多くの支援が被災地に寄せられている。母校・天理大学と天理大学ふるさと会も、前号既報のものに続き、下記の取り組みを行ってきている。また、大震災発生後、さまざまな立場で本会会員が被災地の復旧・復興支援に取り組んできている。そこで今号では、岩手県と宮城県の被災地で復旧・復興に取り組む会員を3人だけだが紹介したい。※天理教の「災害救援ひのきしん隊」や各教会などからの「ひのきしん」に加わるなど、多数の会員が汗を流してきている。

宮城県東松島市／平成24年・2012年4月撮影

■ 天理大学の取り組み

※平成23年・2011年5月以降の活動の抜粋。詳細は母校ホームページをご覧ください！

- 5月8日 朝日・五私鉄リレーウォークに合わせ、天理本通商店街で募金活動を実施。教職員・学生が参加。
- 5月19日 日本赤十字社奈良県支部へ、募金1,039,133円を寄託。
- 5月26日 天理駅前広場にて募金活動。教職員・学生が参加。本年3月までの1年間毎月実施。
※台風による豪雨被害を受け、一時的に十津川村への募金も併せて行った。
- 6月18日 『夏物衣料』（第1便 段ボール12箱）を釜石港分教会へ送付。
- 9月2日～5日 被災地支援ボランティア（多賀城市、七ヶ浜町）の実施と募金の寄託（多賀城市）
教職員・学生が参加。畑の土砂出し、宅地跡の整地作業などを行う。
- 3月14日・15日 宮城県多賀城市へ募金（734,997円）の寄託と夏のプロジェクト実施に向けた現地調査（七ヶ浜町ボランティアセンター）

※この他に、専攻や学生団体などもさまざまな活動を実施してきている（割愛）。

■ 天理大学ふるさと会の取り組み

※平成23年・2011年5月以降

- 母校「東日本大震災復興支援プロジェクト会議」に、ふるさと会からも委員を選出（近藤豊副会長）。
- 7月2日 母校を通じて、多賀城市の社会福祉協議会にお茶やジュースなど飲料を寄贈。
- 9月11日・12日、地区別支部長会議（仙台）の際、吉川萬太郎会長、大橋正叔副学長、井上久光委員が、斉藤軍記宮城支部長の案内で被災会員をお見舞い。

大震災発生当日から各種支援活動に奔走！



ボランティア団体「ひのきしん」代表 高橋 伸実
天理教松山町分教会後継者 天理大学宗教学科平成13年卒業

石巻、東松島、山元

■ 全国から続々と寄せられた“心”

高橋さんは震災当日、地震被害を受けた地元・大崎市で、信者宅や近隣の教会などを安否確認にまわった。この時点ではライフラインが停止しており津波の被害は分からずにいた。

翌日、上級教会のある石巻市へ行くと辺りは海と化しており、津波に襲われたことを知った。大崎市に戻りボランティアセンターの立ち上げに参画、1週間後にボランティアとして石巻市に入った。シートにくるまれた遺体が点在する中、自衛隊が道を造っていく後に続いた。その後、5月頃までは救援物資を避難所などへ届ける活動を主に行った。

遡って、震災2日後、埼玉県在住の天理高校の先輩が500ℓタンクで水を、その夕方には、大阪在住の天理大学北寮の先輩と同級生がワゴン車に物資を満載し駆けつけてくれた。天理の仲間のおかげで、最低限必要なものを確保でき周りの人たちへと目を向けることができた。

「何ができるのか」と自問した。携帯の電波が届く仙台まで行くと不在着信が何十件とあり、メールも200通以上届いていた。天理大学の後輩からの「必要なものと住所を教えてください」というメールに、現状と教会の住所を返信した。その情報が天理教内で全国に駆け巡った。間もなく物資が集配センターに届き、引き取り要請があったがなかなか行けなかった。しかし、続々と届く物資に、また、箱に書かれた「皆、心揃えて応援しています」などのメッセージに感激したセンター長の判断で、教会が唯一の直送場所となり、全国から寄せられた“心”を神様にお供えした後、避難所などへと運んだ。

物資に添えられていたメッセージや同封されていた手紙は高橋さんの「宝物」だ。

■ 自主的に機動的に活動

5月頃までの物資搬送では「必要なものを必要な所へ」と避難所間の連携にも取り組んだ。また、自宅に戻っている方もあり、路地をまわりドアを叩いて届けた。

それと並行して8月頃までは、家屋や周辺の畳や泥出し、崩れかけた塀の撤去などに取り組んだ。ボランティアセンターからの依頼作業の後は自主的に、石巻市の（高橋さんの）拠点が教内のひのきしん者の受け入れ先になり、常時10人ほど、多いときは100人を超える人数で活動した。

10月から福島に近く、半年間放置されていた県南部の山元町に入った。ここでも拠点を与えてもらい、今年の3月に栃木県の下野分教会に引き継いだ。現在は自教会と東松島市の拠点での活動となっている。

今年に入ってからは、仮設住宅において、教会本部お節会のお下がりの餅を使った炊き出し、メッセージを貼ったカイロを届ける「心とからだポカポカ大作戦」、メッセージを添えたバレンタインデーチョコや折り紙のひな人形、鯉のぼり配布などを行った。心がけているのは、被災地の現状の発信と受け取った人の反応を送ってくれた人に伝えること。心と心のかけはし的な役割。

高橋さんは「遠く離れた方にもできる支援があります。また、見に来てくれるだけでもいいと思っています」「笑顔をお届けして人の心を元気にさせたい」と言い、今後は「震災復興ひのきしんからつながるにほいがけ、おたすけに励みたい」と抱負を語った。



南三陸町で雇用創出にも取り組む！

南
三
陸



社会貢献共同体 ユナイテッド・アース 岡本 好市
天理大学宗教学科 平成20年卒業

■ 南三陸町で多様な支援

4月21日、前日神戸を発ったボランティア・バスツアーの一行が南三陸町に到着した。18人の男女で、20代の女性が多く男性は2割ほど。職業は、公務員、教員、医療関係など多様だ。バスツアーは4回目で、今回は岡本さんが引率し炊き出しなどを行う。主催は社会貢献共同体ユナイテッド・アース。

同団体は大震災発生後、現地に先遣隊を派遣。天理高校出身の瀬川映太さんらが赴き、支援に入れたのが南三陸町であった。以後、義援金1,000万円寄付。日本の再生モデルとなる発信基地「コンテナ名店街」設置計画を提案・プロデュース。TSUTAYAのTカードポイント募金を原資に「児童館」設立。産業の復興と活性化を願う「復興市」の開催。同町など4つの拠点をベースにした現地に根ざした活動（延べ8,000人が活動）。現地の状況や活動をリアルタイムに届ける「南三陸町復興応援サイト」運営。旅行代理店と連携「復興市ボランティアツアー」実施。被災体験を語り継ぐ「語り部ガイド」プロジェクト企画・運営。アーティストとの連携による「ARIGATOプロジェクト」展開。「FNS 27時間テレビ2011」復興スマイルライブ・現地アドバイザー。全国1万人の応援メッセージが書き込まれた「絆レインボーフラッグ2011」47都道府県と世界26カ国・44都市で同日に「復興カフェHOPEシェアリング」などに取り組む。同町は平成23年度「地域づくり総務大臣表彰」大賞に選ばれた。

同団体は、単に与えるのではなく、被災者自らが被災地の復興、活性化に取り組んでいくように支援している。被災者15人の雇用も創出した。

これらの活動の中で、瀬川さんが現地に滞在し、岡本さんは主に神戸を拠点にしなが、南三陸町へとボランティアを送り出し、帰ってきた人のフォローをする側で動いてきた。今回は被災地で、岡本さんの明るい声、笑顔が参加者を和ませていた。

■ 岡本さんとユナイテッド・アースとの出会い

岡本さんは大学卒業後1年間アジア各地をまわった。そこで日本が満たされていることを痛感した。その後、天理教会本部で3年間勤務。その3年目のときに瀬川さんの講演を聞き感銘を受けた。その後、平成20年から瀬川さんが所属する株式会社ガイアシステムに入社する。社員研修などを手がける会社だが、その社員は全員が社会貢献共同体ユナイテッド・アースのメンバーでもある。

メンバーの中によろほくが4人いるが、岡本さんは「お道の人は感性がピュアで、いろんなものをキャッチする力がある」、それは「人のため、社会のためという気持ちを持っているから」と言う。

そして今回の被災地支援に関しては「自立できるモデル都市づくりについて自治体と話し合っている」、そのためには「20年くらいかかるつもり」と言う。

岡本さんは抱負として「お道が大好きで、お道の本や資料をいつもカバンに入れている。自分なりに教を伝えていきたい。これから一人でも多くの人に、人とのつながりを感じ、幸せを感じてもらいたい。一人でも多くのサラリーマンに明るくなってもらえるよう努めたい」と語った。



左：岡本さん／右：瀬川さん

培われてきたものを後世に残す架け橋に！

陸前高田



陸前高田市立博物館 学芸員 鈴木 綾
天理大学考古学・民俗学専攻 平成23年卒業

■ 初仕事は文化財レスキューから

地元・陸前高田市の博物館から学芸員採用通知が届いたのは3月2日。その9日後、津波は鈴木さんの実家でもある教会を押し流した。このとき祖母が出直した。鈴木さんは、同市へは3月31日、避難所となっている母親の働く老人ホームへ身を寄せた。

明るく4月1日から勤務をはじめたが、図書館、海と貝のミュージアム、博物館、埋蔵文化財整理室の順で資料を回収。博物館の資料回収がはじまったのは5月中旬であった。博物館は躯体が残っていたが2階まで浸水し1階は土砂・瓦礫で覆われていた。職員6人全員が亡くなり、博物館の兼任学芸員が博物館資料の扱いに心得のあるOB、OGに声をかけ、総勢10人のチームで資料の回収作業が開始された。土砂の中から土器など収蔵品を掘り出す。秋以降は土が凍るので、季節が春であったことは不幸中の幸いだった。

5月半ばから6月半ばにかけて博物館の収蔵品収集に徹し、約7～8割が見つかった。2～3割の資料、資料台帳は流し、データが入ったパソコンは引っ張り出せたもののデータが壊れてしまっていた。

回収できたものは現在、生出地区にある閉校になった小学校に運び込み作業に取り組んでいる。海水につかったため「安定化」処理作業を行うが、総合博物館であるが故に資料が多様であり、資料によって処理が異なる。慎重を要することもあり、まだ何年もかかる。

今（取材時）は、紙、藁資料に取りかかっており、次に衣服類に取り組む予定。衣服類は去年一度洗ったが、冬の間に保管していた箱の中に湿気が溜りカビが発生した。一日も早い空調機器が整備される事を期待している。

厳しい作業の連続だが、これらの作業を通じて鈴木さんは「めったに経験することのない作業に従事しスキルが高まっている」と感じている。

■ 各地からの支援

全国の多くの博物館や研究施設から救援委員会を通して、物資や支援金、ボランティアで学芸員の派遣をしてきている。また、過日、母校から届いた物資は非常に重宝した。

これら全国からの支援に鈴木さんは「ありがたい、非常に感謝している。博物館で働きはじめたばかりで大きなことは言えないが、何らかの形でお返ししたい」と考えており、「海水につかった収蔵品を公開展示できるのはまだ先だが、陸前高田市の培ってきたものを後世に残す作業。それらを伝える手助けができたらと思っている。作業したものを何年かかっても人目に触れさせるようにしたい」、また、「外部から来られたボランティアの方が紹介してくれているが今後、自分達でネット上に情報を発信していきたい」と言う。

最後に、「大震災から1年経ち、やや風化しつつあるのではないかと感じている。いつ、どこで起こるか分からない地震と津波、忘れずにいてほしい」と語った。

（特集1担当 広報部次長 井上久光）



ホームカミングデー、賑やかに!

本会と母校が連携し開催。今後、毎年開催予定!



母校と本会共催で2回目となるホームカミングデーを平成23年(2011年)11月5日に開催。

大学祭で賑やかなキャンパスにおいて、記念式典、記念講演、学科・専攻別プログラム、写真で見る天理大学の歴史(写真展)、懇親会を行い、飛び入り参加の方も含め約250人の本会会員(卒業生)が参集し、恩師や友人との再会、後輩である学生や留学生との懇親など、充実した時間を過ごされた。今号では、その様子をお伝えしたい。

ホームカミングデーは昨年より、毎年開催していこうと母校と本会で話し合っており、本年も大学祭期間中の11月3日に母校とともに開催する。ぜひ、母校へお帰りいただき、母校の昔と今と未来を感じていただき、また、おくつろぎいただきたい。

■記念式典、記念講演

午後1時、ふるさと会館(9号棟)2階・大ホールにおいて、記念式典を挙げる。

天理大学紹介のDVD上映後、飯降政彦学長が母校の課題と取り組みなどについて述べられ、続いて吉川萬太郎本会会長が、歓迎とお礼、そして

今後の母校ならびに本会への支援を呼びかけた。

続いて、株式会社マルナカインターナショナル代表取締役社長で外国語学部ロシア学科卒業の中尾千恵子さんが「母校は遠きにありて思うもの」のテーマで講演。

1960年代後半、母校でロシア語を学び卒業。入社した会社が倒産、その後、小松製作所で海外向け宣伝資料の編集に携わる。

10年後、同社を退職し独立。取締役社長として、会社の維持、運営に奔走。アジア、欧米を対象に企業の海外宣伝に関する企画、編集、マーケティングのほか、月刊誌も出版。ソ連崩壊後はロシアもビジネス対象にし、モスクワ大学ビジネススクールのセミナー講師、ショーのプロデュースなども手がけ、女性ならではの視点でロシア向け美容、ファッション産業の道を切り拓いたことなどを話された。



■学科・専攻別プログラム

現在の学科・専攻ではなく、平成4年（1992年）の学科・専攻を基本に、おもに共同研究室において行われた。

内容として多かったのは卒業生と教員・学生の懇談であったが、社会福祉専攻は登丸寿一元教授を、体育学科は清川勝行元教授を招いて、講演を行った。

また、目立った取り組みとしては、ドイツ語コースが日独交流150周年記念の「菩提樹の植樹式」を挙げる。これは、ドイツから日本に贈られた150本の菩提樹のうちの2本。当日は奈良日独協会から加納雅之副会長が出席され「苗木とともに若い人が成長し日独交流に貢献されることを祈願している」と挨拶された。

次に、インドネシア語コースは、同語関連の卒業生による同窓会「天理大学全国ドリアン会」が発足・第1回総会をふるさと会館で開催し、インドネシア在住の卒業生、また、在大阪インドネシア総領事館領事マヘンドラ・ヤッヒャ氏も臨席されたため、茶菓の準備や留学生による余興などを行った。



■その他のプログラム

母校と本会合同チームで取り組んだのが「写真で見る天理大学の歴史」（写真展）。母校と本会をはじめ、天理教道友社、天理本通り商店街、天理

図書館などから写真を収集し、建学から昭和40年（1965年）頃までの建物を中心とした写真をパネルにし、21枚を3号棟321教室に展示した。

当日は、一般の方や学生も訪れるなか、会員も来場。しばし、懐かしい光景に見入っていた。また、この日は大学史資料調査プロジェクトが資料提供の呼びかけも行った。

この時間帯にはまた、母校の附属施設である参考館と図書館、それに創設者記念館への見学も任意で行っていただいた。

そして、この日は終日大学祭が行われており、学科発表・展示・模擬店などを楽しんでいる会員も見受けられた。

■懇親会

午後5時からは心光館食堂で懇親会を開催。山田常則副学長の挨拶、菊山孝昭ふるさと会常任理事による乾杯で幕を開け、インドネシアの伝統楽器「アングルン」の演奏などの余興が行われるなか、母校教職員と会員は、旧交を温めたり、出会いを楽しんだりして和やかなひとときを過ごした。

お開きには、本学校歌、逍遙歌を卒業生、教職員が肩を組んで大合唱し、名残を惜しみながら解散となった。



■ホームページからの申し込み、宿泊の斡旋

今回は、『ふるさと会報』巻末に申込用ハガキを付けたほか、ホームページからも申し込める。

また、天理教関係がない会員のために、宿泊施設の斡旋も行う。ご活用いただきたい。

各界で活躍する会員



(株)テイビヨウ社長 (大3中) 網野 道秀さん

プロフィール

昭和30年 天理大学中国文学中国語学科卒業 (株帝国製鉄所)に入社
昭和35年6月 (株帝国製鉄所)社長に就任
平成2年 社名を(株)テイビヨウに改称、現在に至る
東成交通安全協会会長、大阪日赤有功会会長など多数兼任

天理大学ふるさと会での経歴

平成3年から平成16年まで大阪中支部長。平成12年ふるさと会常任理事に就任。ふるさと会奨学基金事業の推進をはじめふるさと会活動に積極的に取り組んでいる。

大学時代の思い出

昭和20年3月小学校卒業、4月に天理中学入学、8月に終戦を迎えまさに激動の時期でした。のちに6, 3, 3制が施行され、知らぬ間に時間が経ち大学に入った状態です。旧制中学に中国語科がありましたので、当時中国大陸行を夢見て天理大学へ入学しました。

在学の4年間で、仮校舎と言ってもかまぼこ型の班場作業所のようなところで汗をタオルで拭いながらの勉強も多くありました。然し誰もが文句を言わず、今思えばさぞ先生にもご苦労をおかけしたことだと思います。

社会経済情勢がたいへんな時ですから、大学に行かせて貰うだけでも感謝しておりました。昨今の親御さんは子供たちにどうぞ高校、大学まで行ってくれと頼み込む良き時代とは違いました。4年間で今でも脳裡から離れないのは、お三方との思い出でございます。有馬照代さん、医務の高橋先生、靴屋の中村のおじさん、懐かしい、忘れられない方々です。

勉学もさることながら、ご恩返しの意味でふるさと会

に寄与しています。

息子を亡くしましたので今も現役で活躍しています。社是でもある「親切・責任・研究」が全社員に浸透し「誠意・熱意・創意」をモットーに頑張っております。

また、学生時代からスポーツが好きで、「早起き・正直・働き」が私の信条です。仕事以外に、この世に生かされる以上何らかの形で社会に還元したいと思い、地域社会に奉仕しています。特に社会福祉に深い関心があり、日本赤十字社大阪府支部の職責などを担っており、毎日がフル回転です。

卒業生の皆さんに一言申しあげるなら、幽霊と幸せは誰も掴んだ者はない、理想だけで人生は生きられません。我慢と根性を忘れず一歩一歩足元を見ながら歩み、そしてふるさと会を通して母校を支えてください。

二代真柱様の母校創設の意義をしっかりと肝に銘じて、時代に沿った天理大学のカラーを出してください。母校ふるさと会が消滅しないよう後輩たちにバトンを繋いでいっていただきたい。ますますの母校天理大学とふるさと会の発展を祈願いたします。



天理教コロンビア出張所長 (大30西) 清水 直太郎 さん

プロフィール

奈良県天理市生まれ。素直に「天理学園」(天理幼稚園～天理大学)で純粹培養され、天理大学外国学部イスパニア学科卒業後、「ラテン」の社会に没頭。コロンビア・バージェ大学社会経済学部社会学科卒、天理教教会本部海外部・修養科布教実修掛長、天理大学非常勤講師を経て天理教コロンビア出張所長に至。空手道界では現在、奈良県空手道連盟理事、全日本空手道連盟公認全国審判、天理大学とバージェ大学の両空手道部コーチを務める。



毎週末パーティで騒いでいた、バージェ大学の学食

「コロンビア中毒」症状

天理教コロンビア出張所で所長の任を務めている、外国語学部イスパニア学科卒の清水直太郎です。私の天理大学時代は正直言って、勉学よりも空手道に明け暮れた日々でした。学業面は今で言う「落ちこぼれ」つまり、「落第生」でした。扶育も打ち切られ、親にも迷惑をかけました。バイトに精をだし、勉強もせず、何の取り柄もない学生だったと思います。

この何の取り柄もない学生が突如として変わってくる可能性があります。スポーツ大会で入賞したときや成功したときなどの外的な影響もありますが、人生の中で、目的や目標、すなわち、「僕はこうなりたいねん」「こうしよう、そのためにはどういうふうにするか」と具体的なビジョンが出来てきたときです。

大学卒業後、天理教兵神大教会のお陰でブラジルへ行かせていただきました。そのときはまだ、人生の目標は持っていませんでした。が、2年間の滞在後、スペインに

立ち寄ったとき、そこで「スペイン語」を意識したのです。「いっちょやっつろか〜」てな感じです。語学学校に通っていましたが、作文の時間に提出した中に、「僕の夢は、南米に行って天理教の教えをスペイン語で伝えることです」という幼稚な文章が残っています。

教会本部の先生方、天理大学の諸先生、諸先輩のお陰で1988年11月にコロンビア出張所所員兼留学生として派遣され、天理大学時代とは違って、猛烈に勉強しました。それがコロンビア渡航の一回目であり、コロンビアのバージェ大学を卒業し1994年の12月末に帰国したのです。後、天理教海外部ラテンアメリカ課長、並行して天理大学の非常勤講師をも務めさせてもらいました。

今回16年の時を経て、2010年11月に所長に就任し現在に至っています。

コロンビアの海外における印象は一般にマイナスイメージが多いので、いつも「いや、治安も回復してきてるし、危なくないで」、「食べ物もおいしいし、女性は別嬪さんばかりやで」とコロンビアの宣伝をしています。

中でも、今は「コロンビア人」に魅力を感じています。一回目の滞在時は「ホンマに、なんちゅうやっちゃ!」とコロンビア人との人間関係に否定的でした。しかし、今回「僕はまだコロンビアを知らなさすぎる」と感じたのです。習慣、文化、食べ物、地理など、勉強もし、現地の大学に行ったというだけで「知ったかぶり」をしていたのかもしれません。

所長就任の祭典日の少し前、二、三人のバージェ大学時代の友人に「今度コロンビアで滞在することになりました」という連絡をしました。その中の一人が同級生に連絡してくれ、ある日20人近い連中が来所し、大学教授まで会いに来てくれたときは、本当に目頭が熱くなりました。私が、コロンビア到着後2週間くらいのことです。いつの間にか飲み会になってしまい、同窓会しよう、ということになりました。みんなオッサンオバハンになっていたり、既に離婚した同級生もいたりして、場は大いに盛り上がりました。「勘違いしてたんや。コロンビア人ってええなあ」

結局、一回目は若さゆえ、聞きかじった情報を自分自身で作り上げた先入観でモノを見ていたことが分かったの

です。「世界一列皆兄弟」ごとく、ものの見方にフィルターをせず、心を白紙にして付き合わないといけないなと気づきました。

ラテンアメリカ課長時代は南米の各地を回りました。どの国も陽気で素晴らしいのですが、やはり麻薬中毒ごとく、コロンビア中毒症状が出てきています。

5000坪以上あるコロンビア出張所の敷地、ここで「陽気ぐらし」社会実現に向けて何でも「やればできるやん」と信じ、動き回っています。着任早々、鼓笛隊復活、空手道場設立、日本語教室再編成、雅楽立ち上げ、教えの研修会など、周りの皆さんとの合力で、現在勇んで進んで笑顔で行なっています。今までお世話になった方々、コロンビアの友人や先生も含めて、恩返しのもりで歩んで行こうと思っています。もし、後輩諸君の中で、コロンビアに行きたい、何かしたい、一丁張りしたいとお考えの人がいれば、是非ご一報ください。人情熱きメンタリティーのコロンビア人と共に楽しい人生を送ろうではありませんか。

メール：tenriamigos@gmail.com

結局、外的影響を作り出すのは、つまるところ自分の頑張りであると思う。



コロンビアの
学び屋であり、
たむろしてい
た社会学科棟



空手道・柔道で賑わっている、出張所の「天理道場」



神学はおもしろい



人間学部宗教学科准教授
島田 勝巳

私の専門は大きな枠で言えば宗教学で、関心領域はキリスト教神学の歴史（キリスト教思想史）です。その中でも特に「否定神学」と呼ばれる言説の伝統を、中世末期の西方カトリック世界の思想家、ニコラウス・クザーヌス（Nicolaus Cusanus, 1401-1464）という人物に焦点を当てて研究しています。ドイツ人ですが、ラテン語で書いた人です。

キリスト教の神学を研究対象とする人はほとんどがクリスチャンですが、私の場合はそれを宗教学の立場から、つまり歴史的・記述的な視点から行っています。簡単に言えば、クリスチャン研究者が神学を文字通り「神の言葉の学」として捉えるのに対し、私のような宗教学の立場では、神学を「人間が営む一つの宗教現象」として理解しようとしています。

「否定神学」などあまり耳慣れない言葉だと思えますが、一般的には、超越的な神を人間の言語によって

表現したり理解したりすることは不可能だという認識に立ちながらも、にもかかわらず否定的な表現（「神は～ではない」）の繰り返しによって何とか神を語ろうとする神学的立場を指します。否定を徹底させることで、逆に神の実在を浮かび上がらせる（肯定する）という逆説をはらむ思想です。こうした「否定神学」の立場は、神学的な思考形態全般の基本形を成すものと言えるかも知れません。

私にとって神学という学問の魅力は、その体系の完璧さや壮大さといった点にあるのではなく、むしろその「人間臭さ」にあり、その核心にあるのがまさにこの逆説という性格なのです。神学的な言説が本質的に何らかの逆説的な性格を持つものであるからこそ、神学をあくまでも一つの人間の営みとして捉えようとする視点が意味を持つのではないかと考えています。

こうした神学的思考の基本的な特徴は、実は天理教学にもあてはまる視点です。神学的思考という視点からすれば、私にとってキリスト教神学も天理教学も、構造的に類似性を持つものです。こうした視点を可能してくれるのも、やはり宗教学的な関心だと思っています。

B級ご当地スポーツをご存知ですか？



体育学部准教授
田里 千代

近年、食の世界では「B級ご当地グルメ」がブームで、各地でグランプリが開かれ全国から多くの観光客が押し寄せます。高級料理をA級、手軽に安価で食べられる料理をB級と称し、地元の食材を使ったご当地グルメで、最近の人気は、岡山のひるぜん焼きそばや青森の八戸せんべい汁などでしょうか。

さて、話題を本題のスポーツに移します。

オリンピックや国際大会で行われているスポーツ、サッカーに水泳、バスケットボールなど世界が注目するスポーツは、いわばA級スポーツで、世界で同じルールで競われるので国際スポーツと呼びます。

これに対して「B級ご当地スポーツ」に相当するのが「民族／伝統スポーツ」と呼ばれるもので、ご当地限定で行われ、知る人ぞ知るものばかりです。

たとえば、北米の極北に暮らす先住民は毎年7月に競技会を行います。種目は実に多彩です。たとえ

ば、7キロおもりを付けたひもを耳にひっかけ歩く距離を競うものや、油でギトギトの30センチほどの木片を片手で引っ張り合う競技、さらにはアザラシの皮を剥ぐ速さを競うという驚きの種目もあります。こうした競技の勝利者は、実は生きぬく術として寒さでちぎれそうな耳の痛みに耐える、獲物をしっかり握り取る、獲物の皮を素早く剥ぐことができる、尊敬に値する人なのです。

日本でも、民族／伝統スポーツは豊富にあります。メディアにも取り上げられる西宮神社・十日えびすで行われる福男選び、奈良県の往馬神社の火祭り。いずれも神事で勝てば福がもたらされますが、愛媛の大山祇神社では神様と相撲（普通にみると一人相撲）をとり、あえて負けなければなりません。神様のご機嫌をとって豊作をもたらしてもらおうのです。

このように、私はスポーツ人類学で、世界の民族／伝統スポーツを対象に人々の文化とスポーツを支える多様な価値観について研究しています。スポーツを通じて異文化を理解することは、これからの共生の時代に大切なことですし、とかく勝利に傾きがちな国際スポーツを見直すことにもつながります。

みなさんも、身近なB級ご当地スポーツの楽しさをまずは味わってみてはいかがでしょうか？

キャンパス周辺の文化遺産を明らかに！



文学部考古学・民俗学専攻
准教授 小田木治太郎

天理大学で学ばれたみなさんの中には、柚之内キャンパス南方にある大きな古墳が記憶に残る方も多いでしょう。その古墳は西山古墳といい、全長約180mの大きさを誇ります。大きな古墳といえば鍵穴形、つまり大きな丸に小さな四角がつく前方後円墳がよく知られますが、西山古墳は大きな四角に小さな四角がつく前方後方墳という形をしていて、その前方後方墳の中では全国最大なのです。早く昭和2年(1927年)に国の史跡に指定され、非常によい状態で今に残っています。

このほかにも、柚之内キャンパスの周辺にはたくさん古墳があり、柚之内古墳群と呼ばれています。

また近くには古代氏族の物部氏と関係深い石上神宮があり、キャンパスの周辺一帯の地下には布留遺跡が眠っています。古墳時代、この周辺は全国でも有数の先進地だったことが調査によって分かっています。



西山古墳の測量風景

さて天理大学には、文学部と天理参考館とを合わせて、考古学を研究する者がたくさん在籍しています。私もその一人ですが、そういう人たちが集まって平成23年(2011年)に柚之内古墳群研究会というのを結成して活動をはじめました。定期的に研究会を開催して、他機関の研究者にも参加して頂いて知見を深めています。

また今年の3月には、西山古墳の再測量調査を行いました。3次元レーザースキャニング測量という最新技術を用いた測量です。機械から古墳に向けてレーザー光線を1秒間に何万発もとばして、跳ね返ってきた光をつかまえて古墳表面の座標を無数に記録します。西山古墳は毎年冬になると草を刈って丸裸になるので、この方法の測量にはもってこいなのです。測量成果の検討はこれからですが、このようにして近くの古墳を少しずつ明らかにしていければと、がんばっているところです。

眼球運動と文章構造理解をドッキング!?

—外国語の読解指導の試み—



国際学部講師
吉田 智佳

「速読」はテレビで紹介され、関連書籍も数多く市販されています。しかし、トレーニング方法の説明があっても、その効果と理由については言及されていないため、授業への取り入れをためらっていました。

ある日、眼球運動を調べた興味深い研究論文を発見！ 読解力の異なるレベルの学習者がどのように文章を読むかを比較した研究です(斎田1996, 神部1998, 福田1995, など)。上級レベル者の視点の動きは必要な箇所のみ注視し、それ以外は先へ先へと動くのに対し、初級レベル者の視点は同じところを何度も行き来し、なかなか先に進みません。さらに、同じ文章を再読した場合、前者は必要な箇所のみを「部分再読」するのに対し、後者は箇所に関わらず「全体再読」ということが報告されています(柳沢他, 2010)。

では、上級レベル者が行う眼球運動と部分読みができるよう指導したらどうだろう？ そこで、【図1】のようなシートを使って、左右に眼を素早く動かすトレーニングを取り入れました。

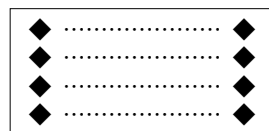
<トレーニング方法> (各30秒)

図1の1段目の◆を左から右へ1つずつ見ながら2段目、3段目と降りていく。一番下の段まで来たら、今度は一番右下の◆から右から左へと見ながら上にあがっていく。次に◆を2つ一緒に左から右へと目を動かす。最後に◆4つを一緒に見ながら左から右へと目を動かす(松田, 2005を参考)。

他の眼球運動用トレーニングを適宜取り入れながら、Timed Reading教材を組み合わせ、毎回、読解速度と理解度を測定しました。「部分再読」ができるよう、英文の文章やパラグラフの構造について、どこに重要な情報が配置されるかを解説し、練習を行いました。

この試みを昨年1年間行なった結果、ほとんどの学生の読解所要時間は大幅に短縮されました。また、「問題探求力が付いた」「集中力が上がった」など、予想しない報告もあり、方法をあれこれと試行錯誤中です。

【図1】眼球運動用シート▶



支部総会におじゃましました！

ふるさと会は本部を天理大学杉之内キャンパス内の「ふるさと会館」内におき、各都道府県をはじめ国内外に支部をおき、本部と支部で連携しながら同窓会活動を展開しています。

今回は支部活動のひとつである、「支部総会」の魅力を探るため、大阪の支部総会へおじゃましました。支部総会の様子をお伝えいたします！

大阪北・中・南支部総会

■開催日：平成24・2012年3月11日（日） 12:00～15:00

■開催場所：道頓堀ホテル

■支部会員数：大阪北	1,729人	支部長／小倉	正司（大14朝）
大阪中	1,607人	支部長／北浦	徳次（大15宗）
大阪南	1,887人	支部長／芝	元一（大13英）

総会当日の様様



まずは受付。今年は誰に会えるだろう？



総会は各支部で、活動報告や人事、会計報告などがあります



参加者全員で記念撮影！

いい笑顔で！



14:46 東日本大震災で被害に遭われた方々へ黙祷



飯降学長より祝辞と母校の近況をお聞かせいただきました

紅雲千里♪ あげほのの～

久しぶり！



乾杯!!

いよいよ乾杯！楽しい宴のはじまりです



最後はやっぱり、肩を組んで輪になって逍遙歌を大合唱！



懐かしい級友との再会！
お互いの近況報告、思い出など話題がつきません



出席者へのインタビュー



大23国 大22仏

Q. 参加回数は？
 A. 2回目（清）
 毎回（河）
 Q. 同級生に一言！
 A. 集まりに出てきて。（2人）



大59体

Q. 参加してみた感想は？
 A. 和やかな雰囲気
 Q. 同窓会に望むことは？
 A. 同世代で集まりたい。



大24体 大21体

Q. 学生時代の思い出
 A. ソフトテニスー筋！（竹）
 陸上で青春（新）
 Q. 同級生に一言！
 A. みんなの顔がみたい（竹）
 還暦同窓会を誰か開催して！（新）



大14西

Q. 学生時代の思い出は？
 A. 休校になればよくソフトボールをした。
 スペイン語が難しかった。



大45生 大50体

Q. 同級生に一言！
 A. 知ってる人は連絡ください（北）
 A. 悩み多き世代？
 相談ください！（笠）



大6露 大6英

Q. 同窓会に望むこと
 A. ボルガ会（ロシア語卒業生の会）の再結成
 Q. 若い世代の方へ
 A. 学問の上での活躍も期待する。



語20中

Q. 同窓会に期待すること
 A. どの支部でもそのようだが、総会案内に対する、返答が少ないことが問題。解決策を練ってほしい。



大7西

Q. 参加回数は？
 A. 10回以上
 Q. 参加してよかったこと
 A. 友人に会える。なかには何十年ぶりの人も。

感想

新企画で、今回初めて大阪の支部総会に参加しました。さすが大阪！ 懇親会での皆さんのトークの盛り上がりは抜群でした。インタビューでは時間の都合上、限られた方のみとしかお話できませんでしたが、次回はたくさんの会員の方にお話をうかがいたいと思います。支部長様はじめ、役員の方々、開催にむけての準備等おつかれさまでございました。当日ご出席の皆様、ご協力ありがとうございました。（事務局 T）

お知らせ！

支部総会へは支部会員のどなたでもご参加いただけます。奮ってご参加ください！ 各支部総会の開催についてはふるさと会のホームページでも情報を掲載しております。また、後ページの支部だよりに支部総会の様子が届いています。是非ご覧ください！

☆支部総会開催情報（直近）

- ・ 8月25日（土）岡山支部（ふるさと会館にて）
- ・ 9月 2日（日）千葉支部（鮪 割烹 みどり）

☆お願い

住所変更、結婚等により氏名変更、転居等の際は速やかに巻末のハガキ等でお知らせいただきますようお願いいたします。

かまぼこ百余年

魚万本店

魚谷 和良(うおたに かずよし)さん
(大30回中卒)

『かまぼこ』という日本の伝統的な食品は、平安の昔より魚の命を“かまぼこ”という商品に移し換えてきた、世界に誇るべき食べ物だと考えています。

このかまぼこづくりを生業とし、また、海のない奈良の地で魚の栄養分や持ち味を大切に商品を提供したいという初代の熱い思いから、明治34年秋に創業し、本年で111年目を迎えています。

私で4代目ということで、創業以来ここ、奈良もちいどの商店街でかまぼこ、揚げ天、佃煮といった商品の製造および販売を行っています。

歴史のある会社ですから、当然昔から大切にしているものもたくさんあります。そのような伝統を守りながら、かつ新しいことにもチャレンジしていかないと、厳しい時代を乗り越えていけません。近年、魚万本店をリニューアルしたのをきっかけに観光客の方を意識した商品開発も多数行っています。なかでも片手で食べ歩きできる「バターポテト(1本200円)」や「食いしん棒シリーズ(6種各320円)」などがとても人気で、テレビの取材等もたびたびあります。



揚げ天詰め合わせ 3,630円



オーナーの魚谷さん

現在奈良市内に本店を含め3店舗で営業しています。通販対応もしていますので、HPで商品を見ていただきご利用下さい。

■魚万本店(うおまんほんてん)

営業時間: 9時~19時30分 不定休
〒630-8222 奈良市餅飯殿町16番地
Tel: 0742-22-3709 Fax: 0742-27-7027
フリーダイヤル 0120-16-6060
e-mail info@uoman.jp
web-site http://www.uoman.jp
アクセス 近鉄奈良駅より徒歩7~8分
JR奈良駅より徒歩15~16分
近くのもちいどのセンター街駐車場もご利用いただけます。

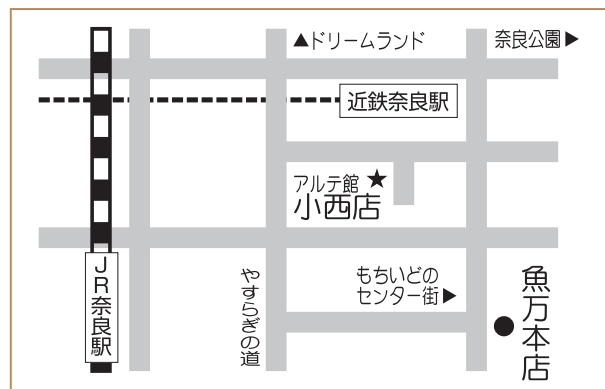
■小西店

〒630-8226 奈良市小西町5 アルテ館
Tel: 0742-26-0579

■学園前店

〒631-0036 奈良市学園北1-10-1 パラディ学園前
Tel: 0742-48-3589

★ふるさと会員 特典!! (2012年12月末日まで)
来店した際に「ふるさと会報を見て」と伝えると、もちいどの本店にて、お買い上げ商品代金の5%引き。



バリ島発オリジナルバック

sisi

生島 尚美(いくしま なおみ)さん
(大44回英米卒)



オーナーの
生島さんと
sisi バック

1999年に、旅行ではまり大好きになったインドネシア・バリ島に単身で渡り、2000年4月(当時26歳)に現地のウブドという町で1号店をオープンさせました。持ち手をデニムにして、強くてカジュアルでなんにでも合わせやすいです。『グラニーバッグ』という基本の形があり、サイズ違いなどで展開しています。sisiのお客さまはリピーターさんが多く、一度使って頂けると「使い易さ」がおわかりになって、柄違い、素材違いでお買い求めいただいています。(定番サイズは3,200円から3,800円程)

インドネシア語で「sisi」(シシ)とは「そば、かたわら」の意味があり、気軽に普段使いで毎日一緒におでかけしてもらえれば、との想いで日々バッグを作っています。

現在はバリ島・ウブドに2店舗、そしてクタエリアに1店舗。友人と趣味と実益を兼ねて同じくウブドにカフェも2年前に始めました。ウブドの事務所も一緒になっているショップの裏にただいま図書室とカフェを作っています。日本では「ならまち」に事務所兼ショップがあります。各ショップではもちろん、webサイトでもお買い物していただけます。バリでの生活をブログや



バリ島・ウブドの新しいショップ

twitter、facebookなどで発信していますので興味ある方はのぞいてみてください。

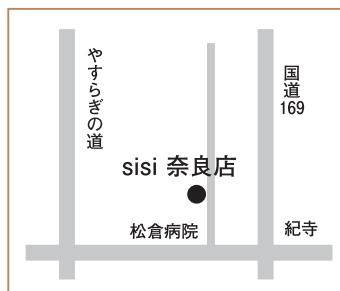
■ sisi 奈良店

営業時間(奈良店)：10時～18時 毎週水曜定休
〒630-8314 奈良市川之上突抜町18番地
Tel/Fax：0742-24-9555
e-mail shop@sisibag.com
web-site <http://www.sisibag.com/>
ブログ <http://www.fururu.net/user/ikusisi/>

★ふるさと会員 特典!! (2012年12月末日まで)
来店した際に「ふるさと会報を見て」と伝えると、3,000円以上のお買い上げで、パティック(ロウケツ染め)のハンカチをプレゼント。



2012年新作のパティック
チェック(紫) 3,500円



～募集しています!!～

「紹介!会員の趣味・お店」のコーナーでは、同窓生の素敵な趣味や、ファッション、グルメ、レジャーなど同窓生が営む魅力的なお店を紹介していきます。あなたの趣味やお店をぜひ会報でPRしませんか?

詳しくは、ふるさと会事務局へお問い合わせください。電話：0743-63-6799

e-mail：mail@furusatokai.gr.jp

「母校天理大学と海外布教」

天理大学ふるさと会顧問 森井敏晴



天理教の海外伝道の始まりは正確にはいつだったのか。記録として残されているのは明治26年(1893年)12月28日発行の『道の友』と思われる。その「内外雑報」の項に「朝鮮布教」と題して「天理教高知分教会の里見半次郎が憤然朝鮮国に向かって布教を試られたり」という記事がある。これをもって天理教の海外伝道の嚆矢としてさしつかえないと思われるが、ただ名前に誤りがあった。

『高知大教会史第一巻』には「本年春郷関を出づるや老年の身として…」という文章がある。里見半次郎は当時若かったから「老年の身」とは明らかに半次郎ではない。実は義父の治太郎であったことが後に明らかになる。このとき治太郎は53歳で『道の友』の記事は治太郎を指してはじめて辻褄が合う。

治太郎は行き先もつげずに家を出た。半次郎はじめ家人が心配していたところ、治太郎から手紙が届いた。「思うところあって先日朝鮮に渡り、今釜山で布教している」という内容であった。

半次郎は高知大教会初代の島村菊太郎に相談したところ、先ずご神意を伺うことが先決ということになり、半次郎は、おちばにて「おさしづ」を仰いだ。

明治26年10月19日(里見半次郎朝鮮派出願)

さあ〜尋ねる事情〜、…いかなる事情もどういう事情も、心の理に委せ置こう。さあ〜心勇んですれば何時なりと。又一つ、心事情に委せ置くによって、さあ〜何時なりと〜。

「当人の勇み心と心定めにかかせおく。心通り、何時でも、どこでも、しっかりつとめるように」という意味で、また、行間からは、全世界は全て布教地であるとの御神意もうかがえる。

これが天理教の海外伝道について出された最初の「おさしづ」である。

それから32年後の大正14年(1925年)、二代真柱様は青年会を母体として「海外布教ニ従事スベキ者ヲ養成スルヲ目的」として、天理大学の前身である「天理外国語学校」を設立された。最初は男女共学であったが、男子生徒は徴兵制度の上から在学中につきつぎと兵役に服してゆく。そこで女子生徒のために昭和3年(1928年)1月、婦人会が中心となり「天理女子学院」が新発足する。その学則も「外国語学校」と同じく「海外布教ニ従事スベキ者ヲ養成スルヲ目的」とするであった。

こうして、海外布教を目的に設立された「外国語学校」と「女子学院」の卒業生が、昭和3年(1928年)から昭和17年(1942年)までの14年間にどれだけ海外布教に赴いたのか、数字で明らかにしたい。

- ①「外国語学校」卒業生 978人 「女子学院」卒業生 65人 計1,043人
- ②「外国語学校」「女子学院」卒業生で中国伝道に赴いた者 男子289人 女子30人 計319人
- ③「外国語学校」「女子学院」卒業生で中国以外の国へ伝道に赴いた者 男子47人 女子2人 計49人
- ④卒業生総数1,043人のうち海外伝道に赴いた人数は②の319人と③の49人で合計368人になる。

これは卒業生総数の35.3%に相当する。この数字は卒業生のおよそ3人に1人が海外伝道に従事していたことを示している。

このことにより、大正14年(1925年)4月、中山正善二代真柱様が「天理教ノ海外布教ニ従事スベキ者ヲ養成スルヲ目的」として設立された「外国語学校」と「女子学院」は、上述した頃までは、その建学の目的を見事に全うしていたということが出来る。

message
from

旧師から

「思い出あれこれ」

飯田 照明

私の場合には例外であると思うが、いったい本務が何であるかわからないほど兼務や海外出張が多かった。

約25年間、教会本部勤務者として、いろいろなことをさせてもらった。同じく25年間、附属天理図書館の副館長、そして館長を務めた。また海外の陽気ぐらし講座や地方講習会の講師も務めた。

大学の業務と直接関係ないが、陽気ぐらし講座の講師としてアメリカへ行ったときのことである。本学に英米学科の講師として来ておられたカーカム教授のお招きを受け、メリーランド大学で学生にお話しをさせてもらった。

またこのときハーバード大学に留学していた澤井義次先生の尽力で、同大学世界宗教研究所でスピーチをさせてもらった。

アメリカのインディアナ大学で、交換客員教授として教えたことも忘れられない。このとき日本では得られない貴重な体験をさせてもらった。この制度をつくるのに尽力下さった、当時インディアナ大学教授の上原豊明先生には大変お世話になった。当時ノース・カロライナ大学に留学中の山田常則副学長が遠路わざわざ会いに来て下さった。

教皇グレゴリアン大学と天理大学とのシンポジウムに参加した。残念乍ら、体調を崩し、第2回、第3回のシンポジウムは欠席した。

大学をつくりその発展を望んで下さった二代真柱中山正善様の海外巡教に通訳として三回随行させてもらった。真柱様は、私が天理語学専門学校（天理大学の前身）の出身であることを大変お喜び下さった。

コンゴ政府から布教認可を取るため出向いたとき、ヌソング氏はコンゴ政府との交渉で、私の天理大学教授という肩書を上手に利用したようで、予想外に早く認可が取れた（当時はまだ助教授であったが）。肩書が思いがけないことに役立った。



この機会に大学の前身、天理語学専門学校について一言。

海外布教伝道のご用に語学で多少お役に立つことができたのは、碩学古野校長の下、実力派の先生方に語学を厳しく仕込んでいただいたお蔭である。同級生の中には東京大学など旧制度の帝国大学へ進学した人が沢山いた。I君などは京都大学の法学部へ進学し和歌山県の検事正になったし、東北大学の英文科へ行ったS君は、オランダ語で書かれた英文法の本を読んでいた。語学に強い伝統が今も脈々と引き継がれていて心強い。

宗教学科では天理教学、宗教学演習と宗教哲学を担当した。一般教養科目では、当時としてはあまりない宗教と科学思想史という総合科目を担当した。前期は人文学系の小生が、後期は自然科学系の上田嘉太郎先生（現表統領）と辻井正和先生が担当された。

有難く思い出すことは、二代真柱様が東大時代の学友や宗教学界の権威を集中講義にお招き下さったことである。そのお蔭で天理に居ながら、これらの大家の聲咳に接し、貴重な耳学問ができたことである。オリент学の世界的権威である三笠宮崇仁殿下も2年に1度集中講義に来られ、毎回聴講させてもらい、この分野での知見を拓くことができた。

60年代から80年代にかけて、日本のどの大学も学園紛争やカルトの草刈場となった。

このとき、愛校心に燃えた多くの学生諸君が、身体を張って対決してくれたことも忘れられない。

応援団の顧問を長く務めたが、自分のことを忘れ、大学の為に一生懸命努力してくれた団員諸君にはいつも頭の下がる思いがした。

最後に、兼務漬けの私が何とか無事大学教員としての務めを果たすことができたのは、歴代の学長先生はじめ同僚の諸先生方の温かいご理解とご支援のお蔭である。心から感謝している。

平成23年4月～平成24年3月

※新しい情報は母校ホームページで！

☆トピックス

「NHK大学セミナー」を開催

6月、NHK奈良放送局と共催で実施。二宮清純氏が「ビジネス・スポーツ論」の講義を行った。

国立ブルネイ・ダルサラーム大学と学術交流協定を締結

9月、同大学と学術交流協定を締結。今後両校間で留学生の交換など学術・教育交流が行われる。



就業力育成支援事業イメージキャラクター誕生

10月、同イメージキャラクターには、ドイツ語コース3年の三沢宏紀君の作品が選ばれた。

「森に生きる」をPICAメッセで紹介

11月、総合教育研究センターは「2011PICAメッセ大和郡山」に出展。育林実習「森に生きる」を紹介。今回で3年連続の出展。

東南アジア競技大会、留学生が柔道で2連覇

11月にインドネシアで開催され、日本語コース4年のサヤラット・ポーンナリー選手が柔道女子52キロ級で2連覇。

宗教文化士に合格

11月、宗教学科4年の陳宗炫君が第1回「宗教文化士」に合格した。

「はばたき・天大スポーツ写真展」開催

1月、てんだりーcolorsで開催。天大スポーツの誌面を拡大し、展示した。

NHK奈良に生出演

1月、NHK奈良放送局「ならナビ」の「みんな

de学校自慢」に「国際交流でニッポン発見」をテーマにESS部、邦楽部、書道部が生出演。

☆研究関連

各種シンポジウムや講演会が開催される

- ▷ 5月、EU研究会例会「天理大学の『エコキャンパス宣言』への試み（提案）」
- ▷ 6月、体育学部主催特別講演「国際社会で求められる真のリーダーとは」
- ▷ 7月、天理大学アメリカス学会定例研究会
- ▷ 9月、宗教学科研究室主催「第1回天理大学宗教研究フォーラム」
- ▷ 10月、第62回朝鮮学会大会
- ▷ 10月、宗教学科主催「韓国社会の宗教に関する特別講義」
- ▷ 10月、天理大学中国文化研究会2011年度第2回公開研究会「文化大革命期の歌曲を考える」
- ▷ 11月、アジア・オセアニア研究コース主催「タイの舞踊と音楽に触れる」
- ▷ 12月、第16回天理大学アメリカス学会年次大会「アメリカス世界のなかのメキシコ」
- ▷ 12月、韓国・朝鮮語専攻主催第2回天理大学国際学研究フォーラム「東日本大震災後の日韓関係」
- ▷ 1月、中国語専攻主催第3回天理大学国際学研究フォーラム「台湾総統選挙と日台関係の回顧と展望」
- ▷ 2月、学生相談委員会主催「学生相談業務から退学者問題を考える」
- ▷ 3月、日本スポーツ人類学会第13回学会大会「身体の表象・翻訳・伝授」

☆学術助成関連

平成23年度、文部科学省や独立行政法人日本学術振興会の科学研究費など、母校教職員分〈研究代表者名〉は以下の通り。

※在職中の教職員のみ掲載。職名は今年度のもの。

科学研究費補助金

一基盤研究B一

- ▷ 文学部・安井眞奈美教授 「近現代日本における出産・育児文化の民俗学・人類学的研究およ

び望ましい将来像の提言」

- ▷国際学部・金 善美准教授 「テンス・アスペクト・モダリティの相関について—日本語と韓国語を中心に—」
- ▷国際学部・奥島美夏准教授 「東南アジア医療福祉にみる看護・介護人材送出実態の実証研究：対HEPA問題を中心に」

学術研究助成基金助成金

—基盤研究C—

- ▷国際学部・下村作次郎教授 「近30年の台湾原住民族文学の発展と言語危機の中で作家達がみずえる民族の未来像研究」
- ▷国際学部・松本充豊准教授 「台湾の民主政治における政党組織の変容に関する研究」
- ▷国際学部・山田政信准教授 「日本産ブラジル系プロテスタント教会のトランスナショナルな宗教実践に関する研究」
- ▷体育学部・中谷敏昭教授 「高齢者が自立生活を維持するために必要なSSC運動プログラムの開発」
- ▷おやさと研究所・幡鎌一弘教授 「西国巡礼者に関する基礎的データの整理と検討—乗寺巡礼札のデータベース化—」

—若手研究B—

- ▷国際学部・長森美信准教授 「朝鮮近世の交通路と交通手段に関する基礎的研究」

学術研究振興資金

- ▷研究代表者 体育学部・中谷敏昭教授 「筋パワーの加齢変化と高齢者のトレーナビリティに関する研究」

文部科学省関係

- ▷管理責任者 国際学部・山倉明弘教授 研究設備「連邦政府による在米日本人・日系アメリカ人対策公文書記録および関連資料集成」

【私立大学等研究設備整備費等補助金】

受託研究 ※【 】は委託者

- ▷人間学部・曾山典子教授 「衛星データを使った全球土地被覆分類アルゴリズムの開発」

【宇宙航空研究開発機構『GCOM研究公募委託研究』】

☆社会還元

公開講座

5月・6月、「天理大学公開講座」を「教養を深めよう—からだを動かし、知性をみがく—」の統一テーマで、天理市文化センターにて開講（全5回）

6月・7月、「地域研究への招待」を柚之内キャンパスにて開講（全5回）。

9月・10月、「『大和学』への招待」を奈良県中小企業会館にて開講（全5回）。

教員免許状更新講習

8月、「平成23年度教員免許状更新講習」を開催。柚之内キャンパスでは「特別なニーズと学校教育心理学」、体育学部キャンパスでは「保健体育科における教科指導」をテーマに講義などを実施。



バドミントン講座

9月から11月にかけて一般社会人のためのスポーツ実技講座「バドミントン初中級編」を体育学部キャンパスにて開講（全7回）。

英語教育研究会

1月、英米語専攻主催の第12回天理大学英語教育研究会が行われ、約100人の小・中・高・大学の教員や学生が参加した。

☆国際化・交流関係

夏期日本語講座

8月、第24回天理大学夏期日本語講座を開講。協定校・キエフ大学の14人をはじめ中国文化大学、台湾首府大学から計33人が来日し、受講した。



英米語の学生 TOEICで高得点、英検1級合格

同コースの4年の太田エベリネ・ミヤコさんが英検（実用英語技能検定）1級に合格。また、TOEICテストで910点を獲得。

また、学内実施のTOEIC IPテストで同コースの4年の中村三津夫君が945点、同コースの4年の雪岡理道君が930点を獲得。

外務省在外公館派遣員に

3月、外務省在外公館派遣員試験に合格した英米語コース4年の中村三津夫君が3年間アフリカのボツワナ共和国の日本大使館へ派遣される。

各種コンテストで活躍

- ▷5月、アジア学科4年の大西善宏君が第10回「漢語橋」世界大学生中国語コンテストの西日本地区予選で二等賞。
- ▷10月、第29回全日本中国語スピーチコンテスト奈良県大会で中国語専攻の学生10人中8人が入賞。
- ▷11月、中国語専攻2年の平尾唯香さんが第25回全日本学生中国語弁論大会で京都新聞社賞。
- ▷12月、地域文化学科2年の上田千穂さんが第6回日本でタイ語を学ぶ大学生のためのタイ語弁論大会のカテゴリー1（2年生の部）で努力賞。
- ▷2月、「外国人留学生による日本語スピーチ大会」で留学生・江曉萍さんが最優秀賞。

☆地域連携

てんだりー colors で「朝カフェ in TENRI」開催

6月、てんだりー colors で奈良県郡山保健所主催の「朝カフェ in TENRI—朝から元気！わ食の日」が開催され、母校学生自治会が運営スタッフとして参加した。



公民館「夏休みキッズランド」を開催

8月、母校学生が参加し「天理大学生とわくわく★ワンピース！」をテーマに開催された（四条畷市教育委員会主催）。

☆教育、進路支援等

教育懇談会

9月、大阪梅田サテライトオフィスで後援会と共催で「教育懇談会」を開催。

学内企業説明会

2月、3年次生を対象にした進路部主催の「学内企業説明会」（官公庁を含む）が開催され、93社の企業と380人の学生が参加した。

☆建学の精神関連

信仰フォーラム

6月に第6回信仰フォーラム講演会「現代における宗教の役割」を、11月に第7回信仰フォーラム講演会「心に響く歌声を」を開催した。

よふぼく会

8月、第58回夏期伝道を山口県で行った。68人の参加者は13班に分かれて個別訪問、神名流し、路傍講演などを行った。

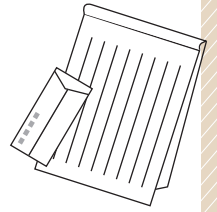
一方、41回目となる海外夏期伝道は、本年もオーストラリア・ブリスベンの天理教オセアニア出張所を拠点に8月に行い、6人が参加した。

成人会

8月から9月にかけて、毎年ハンセン病療養所を訪問している宗教学科の学科会である成人会は、夏期面会ひのきしんを東京都の多磨全生園、宮城県の東北新生園、鹿児島県の星塚敬愛園にて実施。

原稿募集

みなさまとともに、『天理大学ふるさと会報』をつくっていききたいと思います！
以下の原稿を募集しております。よろしくお願いいたします。



おことわり

- お寄せいただいた原稿は、ふるさと会広報部で縮めるなど編集させていただくことがあります。
- 掲載の可否は、ふるさと会広報部で判断いたします。あらかじめご了承ください。

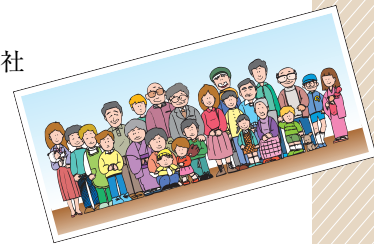
お願い

- 文章は極力簡潔をお願いします（多数の情報を掲載するためです）。
- 文章ならびに写真は、極力データでお送り下さい。
- 写真データは、画素数の大きいものが必要です。
詳しくは事務局へお問い合わせ下さい。



原稿募集

- ☆支部だより …………… 支部総会など。文章は簡潔に。写真データもお願いします！
 - ☆クラス会だより …………… クラス、クラブ、寮などの関係で同窓会を開催の場合。
文章は簡潔に。写真データもお願いします！
 - ☆活躍 …………… 叙勲、表彰など。会員であれば、ご自身、ご友人を問いません。
※掲載の可否は、ふるさと会広報部で判断します。
 - ☆各界で活躍する会員 … 企業、公務員、教員、自営業、NPO、天理教関係…で顕著な活躍をしておられる
（おられた）方をご紹介します。
※掲載の可否は、ふるさと会広報部で判断します。
 - ☆趣味、お店 …………… ○秀でた趣味や特技をお持ちの方 ○会員が営むお店、会社
※掲載の可否は、ふるさと会広報部で判断します。
 - ☆近況 …………… ご自身の近況について。文章は簡潔をお願いします。
卒業年・学科、旧姓もお書き下さい。
- ※第60号の原稿の締め切りは、平成25年（2013年）4月30日です。



新任紹介

天理大学平成24年度着任

①所属、②職名、③専門分野



古賀 崇

- ①総合教育研究センター
- ②准教授
- ③図書館情報学、政府情報論、記録管理学



西野 由紀

- ①国文学国語学科
- ②准教授
- ③日本近世文学



塗 玉蓋

- ①中国語専攻
- ②准教授
- ③日本仏教



服部 志帆

- ①地域文化学科
- ②講師
- ③アフリカ地域研究、生態人類学、民族植物学



澤井 志保

- ①言語教育研究センター
- ②助教
- ③現代インドネシア語文学、アジア域内の女性の移住労働



山本 大輔

- ①体育学科
- ②講師
- ③バイオメカニクス、陸上競技



梅崎 さゆり

- ①体育学科
- ②助教
- ③バレーボール、スポーツ方法学

出版物紹介

母校教員が刊行や編纂した本を紹介します



佐藤孝則 著
『「二つ一つ」の環境学』
おやさと研究所 発行
定価（本体850円＋税）



松本充豊 分担執筆
『政党システムの理論と実際』
おうふう
定価（本体3,600円＋税）



住原則也 共編著
『経営理念』
経営管理出版社（中国）
定価（39元）



森洋明 分担執筆
『コンゴ伝道の諸活動』
おやさと研究所 発行
定価（本体800円＋税）

出版物紹介



「みかぐらうた」の世界を味わう
平成20年・21年度公開教学講座 編
おやさと研究所 発行
定価 (本体1,000円+税)



山倉明弘、野口茂、梅谷昭範 分担執筆
「アメリカスの天理教」
おやさと研究所 発行
定価 (本体1,000円+税)



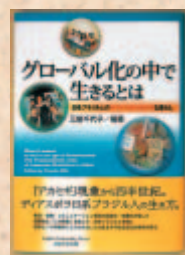
マッシュュー・アイナン 訳
「Legends of Nara」
奈良新聞社
定価 (本体1,800円+税)



近藤豊、片倉充造 分担執筆
「スペイン文化事典」
丸善
定価 (本体20,000円+税)



高橋美帆 著
「幻想の〈修道女〉」
英宝社
定価 (本体2,400円+税)



山田政信 分担執筆
「グローバル化の中で生きるとは」
上智大学出版
定価 (本体1,905円+税)



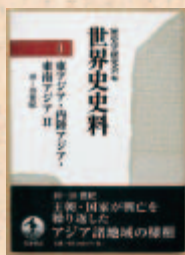
山田政信 分担執筆
「グローバル化するアジア系宗教」
東方出版
定価 (本体4,000円+税)



澤井義次 著
「天理教教義学研究」
天理教道友社
定価 (本体1,500円+税)



長森美信 分担執筆
「朝鮮史研究入門」
名古屋大学出版会
定価 (本体4,400円+税)



長森美信 分担執筆
「世界史史料4」
岩波書店
定価 (本体4,600円+税)



安井真奈美 編著 飯島吉晴、齊藤 純 分担執筆
「出産・育児の近代」
法蔵館
定価 (本体9,000円+税)



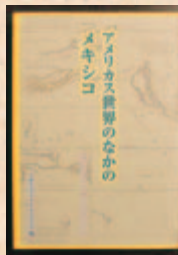
安井真奈美 分担執筆
「現代文化のフィールドワーク入門」
ミネルヴァ書房
定価 (本体3,000円+税)



松尾勇、金善美 共著
「佳子のソウル留学から」
同学社
定価 (本体2,500円+税)



藤田明良 分担執筆
「世界史中的東亞海域」
中華書局
定価 (本体39人民幣)



「アメリカス世界のなかのメキシコ」
天理大学アメリカス学会 編
萌書房
定価 (本体2,100円+税)



小山順子 著
「藤原良経」
笠間書院
定価 (本体1,200円+税)



前田均 解説
「南洋群島國語讀本」
大空社
定価 (本体14,000円+税)

一般の出版社刊行のものはお近くの書店やネット書店でお求めください。

それ以外のものは、広報部へお問い合わせください。

(学) 天理大学広報部

0743-63-8420(代) or 0743-63-9006

国際文化学部 ヨーロッパ・アメリカ学科 英米語コース

研修先＝オーストラリア 4年次生 小林 謙介

平成24年2月16日から3月27日までの41日間、オーストラリアの首都、キャンベラを活動拠点とし研修を行った。私は本学のフィールドホッケー（以後ホッケー）部に所属しており、文武両道を信念とし学生生活を送っている。その部活動での知識、技術を、歴史も深く、名実ともに世界一のホッケー大国であるオーストラリアで深めたいと考えた。

私は、キャンベラの平成23年度のクラブチーム大会(州大会)の覇者である、Old Canberra Hockey Club (オールドキャンベラホッケークラブ)のメンバーのJohn Bartholo Mews氏と渡豪前よりコンタクトをとることができ、チームの活動に参加する了解を得ていた。いざ現地に到着しチームメイトやルームメイトと合流してみると、全く何を言っているのか分からないといっても過言ではないほど、自身の語学力の低さを痛感し向こう1カ月以上続く生活に不安を抱いた。

私が実際にキャンベラでプレーし始めたのは到着して1週間後であった。私が到着した時にはまだオフシーズンの終盤で、どこのチームもトレーニングを行っていなかったのだ。その期間は半年毎にあり、オフシーズンには長期的に身体を休める時期に充てるプレイヤーも少なくないが、他のスポーツ（例えば、フットサルや水球、ロードバイクなど）や自主トレーニングなどで身体を鍛え、次のシーズンに備えるプレイヤーがほとんどである。

今回の研修では、本場のホッケー漬けの毎日を通じて、ホッケーについてさらなる見聞を広め、知識を深めたいという一心であった。だが、実際



同年代のホッケー選手とコーチ

には想像と異なり、日本では体験できないような生活となった。休日には大都会のシドニーへ出向き、日本とは違った形のシティーライフを体験することで、休日の過ごし方を学んだ。また、大草原に通る一本の道路をサイクリングしたり、カンガルーやオウムなど野生の動物たちを見ることで自然の雄大さ、豊かさを感じることができた。今まで学んできた英語を実際に活用することで、実用性の有無、便利な感情表現、人とのコミュニケーションから挨拶の仕方まで、「生の英語」を学習することができた。それと同時になかなか伝わらないこと、理解できないものもたくさんあり、学習程度の未熟さも感じた。ホッケー中心の生活であったが、実際に他国のホッケー事情に触れ体験してみれば、ホッケーを生活の一部としてとらえることで、生きる上での深く広い人間性、知識の大切さを知り、感性を磨くことができたのではないかと考える。これは人伝えに学ぶものではなく、自らの体験でしか得ることのできないものであろう。今回の研修のおかげで人脈が世界へと広がり、私自身の将来も大きく拓くことができた。本当に貴重な体験ができた。今後も「生涯学習」という精神を常に抱き生活していきたいと強く感じている。

国際文化学部 ヨーロッパ・アメリカ学科 英米語コース

研修先＝ツバル 3年次生 松井 親尚

この度、ふるさと会研修生として南太平洋の島国ツバルに於いて、Ⅰ環境破壊の現状と対策、Ⅱツバル人の日常生活・信仰意識を課題として次のような研修をさせていただきました。

I ① “海面上昇に対するツバル国の生態工学的維持”プロジェクトの見学

② NPO日本ツバル交流協会の使節としてツバル国首相に親書の手渡し

II ① ホームステイ、参与観察、礼拝の同行

② 牧師にインタビュー

③ 信者にインタビュー

④ フィジーの南太平洋大学で文献収集

ツバルは地球温暖化の影響で最初に沈むだろうと報道されてきました。しかし現在、その他の原

因について調査しているJICA（国際協力機構）のプロジェクトを今回見学させていただき、カウンターパートがどれだけ支援側と受入国との橋渡しとして必要不可欠な存在か、プロジェクトが単なる一方的な技術協力ではなく、ツバル人への啓蒙活動を行っていることがツバルという国にとってどれほど重要かなど、多くのことを勉強させて頂きました。また、NPO日本ツバル交流協会の使節として同国首相に謁見させて頂いたことは身に余る光栄でした。

信仰や日常の調査では、国民（約1万人）の9割が信仰するキリスト教について、日常生活に見られる信仰から探るべくキリスト教会牧師宅にホームステイをさせていただきました。毎日の祈祷から、日曜礼拝・学校、聖歌隊、会活動などを観察、インタビューすることで、キリスト教の概観を調査できたことは、自身の信仰を見つめる機会ともなりました。

紙面の都合上ご報告は以上とさせていただき、最後になりましたが、ご支援頂いた貴会はじめ、情報提供や使節の役をお与え頂いたNPO日本ツ



研修を支えてくれた最高の仲間たちと

バル交流協会理事長様・会員皆様、素晴らしい経験をさせていただいたJICAプロジェクト関係の皆様や Tuvalu Overview の北添さん、広島大学の荒木さん、天理大学の国際交流部一瀬様、倉光先生、井上先生、牧山さん、我が子のように可愛がってくれたイオセファファミリー、インタビューの回答者、Nautiの青年たち、家族、その他ご協力頂いた方々、全ての方に感謝を申し上げます。Fakefetai lasi lasi.

国際文化学部 ヨーロッパ・アメリカ学科 英米語コース 研修先＝オーストラリア 4年次生 辻 美紗希

私は平成23年8月5日から9月5日の32日間、天理大学ふるさと会海外研修生としてオーストラリアにて研修させて頂きました。研修テーマを



小学校5年生の授業で行った習字

「オーストラリアにおける日本語教育の現状とその課題」と設定し、私の母校の奈良県立五條高等学校の姉妹校であるオーストラリアヴィクトリア州に位置するガートン・グラマースクールにて4週間、日本語教師のアシスタントボランティアとして活動しました。

多国籍・多民族国家と呼ばれているオーストラリアでは、各民族の文化・言語を促進していこうという考えが強く、言語の面ではLOTE（Languages Other Than English）という英語以外の言語教育政策が導入されています。社会的・文化的・経済的な側面から国が指定した優先言語（9カ国語）の中から学校側が言語を選び、生徒に学ばせるという内容です。ガートン・グラマースクールではフランス語と日本語がLOTEとして導入されており、日本語はPrepと呼ばれる5歳児のクラスからYear12（高校3年生）までの生徒が勉

強していました。学年によって授業の形態は様々で、特に小学生はゲームなどのアクティビティ活動を通じて体全体で日本語を「楽しく」学んでいる姿が印象的でした。また授業以外の場面でも生徒たちが積極的に日本語であいさつをしてくれたり、話かけてくれる姿も印象的でした。

しかし、近年の中国の経済拡大により中国語をLOTEとして導入する学校が増えてきており、オーストラリアでは日本語学習者の数が減少していると先生からお聞きしました。その中でいかにして学習者を残していくことができるかが今後の

課題であると考えます。

初めて学校という教育現場へ教師側として入らせて頂き、先生方の生徒への深い愛情を感じ改めて教師という仕事の素晴らしさや偉大さを感じました。今回の研修を快く受け入れて下さったガートン・グラマースクールの日本語学科の先生方、ホストファミリー、オーストラリアで出会った全ての方、そして日本で支えて下さった数え切れない方々に心よりお礼を申し上げます。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださったふるさと会の皆様、本当にありがとうございました。

国際文化学部 ヨーロッパ・アメリカ学科 ブラジルポルトガル語コース
研修先＝ブラジル 4年次生 高島 和代

この度、ふるさと会海外研修生としてブラジルサンパウロのサンベルナルド・ド・カンポ市にあるアルモニア学園に行かせて頂き、ブラジルにおける日本語教育現状視察を目的とし、2週間の研修を行わせていただきました。

アルモニア学園は私立学校であり幼稚部から高等部まで360人の生徒が通い、生徒の約7割は非日系が占めています。もともとアルモニア学園は日系人の寮とし多くの日系人が大学へ通うため、またスポーツ関係で寮に宿泊するために使われていました。そして1993年にアルモニア学園となり、今では必須科目として全生徒が日本語の授業を週2回行っています。

なぜ日本語を必須科目としているのか。それはアルモニア学園が日本を大切に思い、誇りに思うことから始まり、今では日本の道徳をもとに子ども達を育てているからです。

私は中学生までの全クラスを見させていただき、多くの生徒は日本のアニメや漫画が大好きであったり、日本の文化が好きという生徒など、様々な生徒達がありました。私が特に関心をもったのは、アルモニア学園では日本語に接するだけではなく、日本の文化を重視しているため、文化を学ぶ授業を多く取り入れています。私が行かせていただいた期間は、ひなまつりについて授業を行っていました。生徒たちは日本の文化にとっても興味深々で、

先生の話に耳を傾けている姿勢が私には印象に残りました。

研修期間を通して私は、アルモニア学園は日本の学校以上に日本の文化のことを教育しているのではないかと感じました。また生まれ育った環境によりブラジル独自の雰囲気があるので子供たちはとても陽気で活発でした。日本から来た私に日本について質問をしてくれたり、授業中で分からないことがあれば積極的に声をかけてくれる子供たちにただただ驚き、またそれがブラジルの学校の魅力だと感じました。

今回の海外研修を通して、日本ではできない貴重な体験をさせていただきました。研修で得たことをしっかり心に納め、今後の人生に活かしていきたいと思っております。このような貴重な機会を与えて下さった皆様に大変感謝しております。本当にありがとうございました。



授業のはじめに日本語で「チューリップ」を歌う子どもたち

合気道部

- 第31回関西学生合気道競技大会（6月12日）
 乱取り個人男子 優勝 水畑智晴（体4）
 乱取り個人女子 優勝 高矢裕貴（欧米3）
 団体女子 優勝
 演武・徒手男子 2位 山口大輝（欧米4）・水畑智晴（体4）組
 演武・武器男子 3位 藤田健吾（欧米3）・吉田泰祐（歴2）組
 第9回国際合気道競技大会（8月10日～14日）
 演武・有段の部・短刀17本 2位 高矢裕貴（欧米3）
 第42回全日本学生合気道競技大会（10月30日）
 男子乱取り個人戦 優勝 水畑智晴（体4）
 女子乱取り個人戦 2位 高矢裕貴（欧米3）
 3位 我妻百香（人3）
 女子乱取り団体戦 準優勝

アメリカンフットボール部

- 秋季西日本大会（9月10日～12月10日）
 3部Bブロック 優勝（5勝1敗） 入替戦出場（敗退）

空手道部

- 第45回関西学生空手道個人選手権大会（4月29日）
 男子個人組手+75kg級 ベスト8 西村直也（亜3）
 -60kg級 3位 横田吟（体4）
 女子個人組手+61kg級 準優勝 羽根彩香（体4）
 -55kg級 準優勝 畠山和香奈（体3）
 -50kg級 ベスト8 澁谷秋羽（欧4）
 個人女子型 準優勝 中川葵（地2）
 第3回関西学生空手道オープントーナメント（9月11日）
 男子シニアクラス 3位 坂井滉（体1）
 ベスト8 清水優大（体1）
 女子エクセレントクラス ベスト8 羽根彩香（体4）
 女子シニアクラス 準優勝 安藤花純（地2）
 ベスト8 遊木美里（地1）
 第54回全関西大学空手道選手権大会（10月2日）
 男子団体組手 3位、女子団体組手 3位

弓道部

- 関西学生弓道リーグ戦（9月18日～10月30日）
 男子2部リーグA 2位、女子3部リーグB 2位

剣道部

- 第59回関西学生剣道優勝大会（男子団体）（9月11日）
 ベスト8
 第24回関西学生剣道新人大会（11月23日）

- 女子個人I ベスト8 清水結子（体1）、白川理沙（体1）
 女子個人II ベスト4 西藤真梨（体2）

硬式野球部

- 阪神大学野球春季リーグ戦（4月3日～5月16日）
 1部 4位 7勝5敗1分・勝点3
 第18回大学野球関西オールスター5リーグ対抗戦
 （6月24日）
 優勝 阪神リーグ代表 上本健太（体4）、高橋康平（欧米4）、
 立花允夫（体2）
 阪神大学野球秋季リーグ戦（9月4日～10月11日）
 1部 2位 8勝4敗・勝点4

テニス部

- 関西大学対抗テニスリーグ戦（9月7日～10月10日）
 男子 5部降格（エントリーミスによる自動降格）
 女子 3部 6位 0勝5敗
 3部・4部入れ替え戦 0勝5敗（4部降格）

柔道部（男子）

- 第61回関西学生柔道優勝大会（5月22日） 優勝
 第60回全日本学生柔道優勝大会（6月24日～26日）
 ベスト16
 近畿ジュニア柔道体重別選手権大会（7月10日）
 -66kg級 3位 山本雄大（体1）
 -73kg級 優勝 土井健史（体1）、2位 大野将平（体2）
 -81kg級 優勝 丸山剛毅（体1）、2位 富田滉平（体2）
 -90kg級 3位 北林宝（体1）
 -100kg級 優勝 堀内翔太（体1）、3位 清水将（体1）
 第30回関西学生柔道体重別選手権大会（9月4日）
 -60kg級 優勝 西尾享祐（体3）
 3位 三木秀樹（体4）、3位 宇城裕二（体4）
 -73kg級 優勝 大野将平（体2）、3位 土井健史（体1）
 -81kg級 優勝 丸山剛毅（体1）、3位 矢田友克（体3）
 -90kg級 3位 山平隆太（体1）、3位 北林宝（体1）
 5位 村上亮（体1）
 -100kg級 優勝 小林督之（体3）、5位 村岡大潤（体3）
 +100kg級 優勝 津田賢一（体4）、2位 西田勇生（体2）
 3位 明石弘平（体4）、5位 酒井高喜（体4）
 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月10日～11日）
 -73kg級 優勝 大野将平（体2）
 -81kg級 優勝 丸山剛毅（体1）
 全日本学生体重別選手権大会（10月8日～9日）
 -60kg級 3位 宇城裕二（体4）
 ベスト8 三木秀樹（体4）

ベスト8 西尾享祐(体3)
 -100kg級 3位 小林督之(体3)
 ベスト8 村岡大潤(体3)
 +100kg級 2位 津田賢一(体4)
世界ジュニア柔道選手権大会(11月3日~6日)
 -73kg級 優勝 大野将平(体2)
 -81kg級 優勝 丸山剛毅(体1)
第32回全日本学生体重別団体優勝大会(10月29日~30日)
 ベスト16

柔道部(女子)

全日本学生女子柔道優勝大会(6月24日) ベスト16
近畿ジュニア柔道体重別選手権大会(7月10日)
 -57kg級 優勝 宮城奈央(地2)
 -70kg級 優勝 吉澤楓(地1)
関西学生柔道体重別選手権大会・個人戦(9月4日)
 -57kg級 3位 宮城奈央(地2)
 -63kg級 3位 大川愛(体3)
 -70kg級 優勝 山本一葉(体3)
 3位 小寺那奈(体3)
 -78kg級 3位 佐藤愛(体3)
全日本学生柔道体重別選手権大会・個人戦
 (10月8日~9日)
 -63kg級 ベスト8 大川愛(体3)
 -70kg級 ベスト8 山本一葉(体3)
 ベスト16 小寺那奈(体3)
全日本学生体重別団体優勝大会(10月29~30日)
 ベスト16
湊谷杯全国学生柔道体重別選手権大会(12月3日)
 -70kg級 準優勝 吉澤楓(地1)、3位 佐藤愛(体3)

水泳(競泳)

第85回関西学生選手権水泳競技大会(7月29日~31日)
 男子
 1部 総合4位
 200m自由形 2位 山本誠一郎(体4)
 7位 藤田紀良(体4)
 400m自由形 3位 山本誠一郎(体4)
 200m背泳ぎ 7位 北東祐輝(体2)
 100m平泳ぎ 4位 篠原大輝(体4)、7位 永森圭介(体3)
 200m平泳ぎ 3位 篠原大輝(体4)、6位 永森圭介(体3)
 100mバタフライ 4位 北村峻(体2)
 7位 柴田翔汰(体2)、8位 岩城晃一郎(体4)
 200mバタフライ 3位 岩城晃一郎(体4)
 4位 北村峻(体2)、5位 柴田翔汰(体2)

400mフリーリレー 5位 関口剛史(体4)・
 山口雄太(地1)・福田晃(体4)・岩城晃一郎(体4)
 800mフリーリレー 4位 北村峻(体2)・
 谷口大侑(体2)・藤田紀良(体4)・山本誠一郎(体4)
 400mメドレーリレー 5位 北東祐輝(体2)・
 篠原大輝(体4)・岩城晃一郎(体4)・関口剛史(体4)
 女子
 1部 総合6位
 50m自由形 3位 横村征美(体3)、7位 中岡しおり(体3)
 100m自由形 1位 横村征美(体3)、7位 永峰麻美(体3)
 400m自由形 8位 灰田佳恵(体2)
 100m背泳ぎ 6位 大原彩(体3)、7位 鈴木亜由美(体2)
 200m背泳ぎ 5位 鈴木亜由美(体2)、8位 大原彩(体3)
 800mフリーリレー 4位 永峰麻美(体3)・
 尾崎里紗(体2)・横村征美(体3)・灰田佳恵(体2)
 400mメドレーリレー 5位 大原彩(体3)・
 西田菜紗(人3)・野津由美子(体1)・横村征美(体3)
KONAMI OPEN 2012水泳競技大会(1月21日~22日)
 男子50mバタフライ 6位 北村峻(体2)
 女子200m背泳ぎ 8位 鈴木亜由美(体2)
第34回関西学生春季室内選手権水泳競技大会(3月3日)
 男子
 100m自由形 6位 木綿直人(地1)
 200m自由形 6位 竹田悠紀(地2)
 400m自由形 5位 竹田悠紀(地2)
 1500m自由形 7位 山口雄太(地1)
 200m背泳ぎ 2位 北東祐輝(体2)
 200m背泳ぎ 5位 村上武(体1)
 100m平泳ぎ 3位 永森圭介(体3)
 200m平泳ぎ 6位 永森圭介(体3)
 100mバタフライ 8位 柴田翔汰(体2)
 200mバタフライ 4位 北村峻(体2)
 400m個人メドレー 5位 末吉拓也(体1)
 女子
 50m自由形 2位 横村征美(体3)
 100m自由形 4位 横村征美(体3)
 400m自由形 4位 尾崎里紗(体2)
 800m自由形 1位 灰田佳恵(体2)
 4位 尾崎里紗(体2)
 5位 岩田茜衣(体2)
 100m背泳ぎ 1位 大原彩(体3)
 200m背泳ぎ 5位 鈴木亜由美(体2)
 100m平泳ぎ 6位 西田菜紗(人3)
 200mバタフライ 6位 井上愛理(欧米3)
 8位 野津由美子(体1)

200m個人メドレー 8位 鈴木亜由美(体2)

水泳(飛び込み)

飛込国際大会代表選手選考会(日本選手権代替)
(4月1日~3日)

女子1m飛板飛込 優勝 和田雅(体1)

女子3m飛板飛込 3位 和田雅(体1)

平成23年度関西選手権水泳競技大会飛込競技
(6月25日~26日)

シニア女子3m飛板飛込 4位 伊藤理子(体3)

5位 和田雅(体1)

シニア女子1m飛板飛込 1位 和田雅(体1)

シニア男子高飛込 7位 前谷健佑(体1)

第87回日本学生選手権水泳競技大会飛込競技
男子 (9月2日~4日)

総合 7位

シニア3m飛板飛込 11位 前谷健佑(体1)

シニア高飛込 12位 前谷健佑(体1)

女子

総合 2位

高飛込 2位 伊藤理子(体3)

3m飛板飛込 4位 和田雅(体1)

5位 伊藤理子(体3)

ソフトテニス部(男子)

関西学生ソフトテニス春季リーグ戦(4月29日~30日)

1部 5位 1勝5敗

西日本学生ソフトテニス選手権大会(6月25日~29日)

ベスト8 河村優太郎(体4)・大沢亮介(体4)

第66回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会
(8月8日~10日)

ベスト16 河村優太郎(体4)・大沢亮介(体4)

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦(9月17日~18日)

1部 4位 2勝3敗

ソフトテニス部(女子)

関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会
(4月24日~5月14日)

ベスト8 中田彩子(体4)

関西学生ソフトテニス春季リーグ戦(4月29日~30日)

1部 6位 0勝5敗 入替戦勝利(1部残留)

西日本学生ソフトテニス選手権大会(6月25日~28日)

ベスト16 山口聡子(地2)・吉村優希(体1)

第53回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会
ベスト16 中田彩子(体4) (8月11日)

ベスト16 吉川明見(外2)

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦(9月17日~18日)

1部 2位 3勝2敗

バスケットボール部(男子)

第38回関西学生バスケットボール選手権大会 5位
(4月16日~5月5日)

第61回西日本学生バスケットボール選手権大会 2位
(5月29日~6月5日)

関西学生バスケットボールリーグ戦 1部 2位
(8月27日~10月23日)

第63回全日本大学バスケットボール選手権大会 3位
(11月21日~11月27日)

第87回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権大会
ベスト16 (1月1日~1月9日)

バスケットボール部(女子)

第32回全関西女子学生バスケットボール選手権大会 6位
(4月24日~5月5日)

第60回西日本学生バスケットボール選手権大会 ベスト16
(5月31日~6月2日)

関西女子学生バスケットボールリーグ戦 7位
(9月4日~10月16日)

バドミントン部(男子)

関西学生バドミントン春季リーグ戦(4月27日~5月17日)
2部 2位 3勝2敗 入替戦進出(敗退)

関西学生バドミントン秋期リーグ戦(9月10日~16日)
2部 3位 2勝3敗

バドミントン部(女子)

西日本学生バドミントン選手権大会(8月28日~9月6日)
団体 ベスト8

関西学生バドミントン春季リーグ戦(4月27日~5月17日)
1部 6位 0勝5敗 入替戦敗退(2部降格)

関西学生バドミントン秋期リーグ戦(9月10日~16日)
2部 1位 5勝0敗 入替戦進出(敗退)

ハンドボール部(男子)

関西学生ハンドボール春季リーグ戦(4月9日~14日)

1部 7位 2勝5敗 入替戦敗退(2部降格)

関西学生ハンドボール秋季リーグ戦(9月17日~10月16日)
2部 1位 6勝0敗 入替戦勝利(1部昇格)

ハンドボール部（女子）

関西学生ハンドボール春季リーグ戦（4月10日～14日）
1部 6位 2勝4敗1分
関西学生ハンドボール秋季リーグ戦（9月17日～10月16日）
1部 4位 3勝3敗1分

バレーボール部（男子）

関西大学バレーボール春季リーグ戦（4月10日～5月22日）
1部 8位 1勝9敗（2部降格）
関西大学バレーボール秋季リーグ戦（9月10日～10月23日）
2部 1位 9勝1敗（1部昇格）

バレーボール部（女子）

関西大学バレーボール春季リーグ戦（4月10日～5月22日）
2部 3位 5勝5敗
関西大学バレーボール秋季リーグ戦（9月10日～10月23日）
2部 2位 9勝1敗 入替戦進出（敗退）

ホッケー部（男子）

関西学生ホッケー春季リーグ（5月28日～29日） 2位
第30回全日本大学ホッケー王座決定戦
優勝 3年ぶり21年度目（6月29日～7月3日）
第39回西日本学生ホッケー選手権（8月28日～9月4日）
3位
関西学生ホッケー秋季リーグ（10月1日～2日） 3位
第60回男子全日本学生ホッケー選手権 2位
（10月31日～11月3日）
FIHチャンピオンズチャレンジ I 2011
7位 日本代表 三谷元騎(体3)（11月26日～12月4日）

ホッケー部（女子）

関西学生ホッケー春季リーグ（5月28日～6月5日）
2位
第30回全日本大学ホッケー王座決定戦 3位
（6月30日～7月3日）
第39回西日本学生ホッケー選手権（9月10日～11日）
2位
高松宮牌ホッケー日本リーグ（5月20日～10月16日）
6位 3勝5敗1分・勝点10
関西学生ホッケー秋季リーグ 2位（10月22日～23日）
第33回女子全日本学生ホッケー選手権 2位
（10月30日～11月3日）
第72回全日本女子ホッケー選手権 3位（11月17日～20日）
第7回FIH女子チャンピオンズチャレンジ I

優勝 日本代表 大塚志穂(体4)（6月18日～25日）
第2回女子アジアチャンピオンズトロフィー
3位 日本代表 大塚志穂(体4)（9月3日～11日）
FIH女子チャンピオンズトロフィー2012
5位 日本代表 大塚志穂(体4)（1月28日～2月5日）

ラグビー部

関西大学リーグ（9月25日～12月3日）
Aリーグ 1位 7勝0敗
全国大学ラグビーフットボール選手権 準優勝
（12月18日～1月8日）

陸上競技部（男子）

第88回関西学生陸上競技対校選手権（5月12日～15日）
1部 総合 8位
フィールド 4位
混成 2位
400m 7位 松吉修平(体2)
走高跳 3位 寺地研人(体4)、5位 廣瀬智之(体4)
走幅跳 1位 東孝一(体4)、4位 長田有司(地2)
三段跳 7位 長尾慎祐(体4)、8位 須田鉦吉(体4)
砲丸投 5位 西守貴弘(体4)
円盤投 4位 西守貴弘(体4)
ハンマー投 7位 植原久貴(体2)
十種競技 3位 井口雅仁(体4)、5位 町塚正平(体4)
第95回日本陸上競技選手権（6月10日～12日）
走幅跳 8位 東孝一(体4)
第64回西日本学生陸上競技対校選手権（7月15日～17日）
走高跳 8位 滝野大樹(体1)
走幅跳 4位 東孝一(体育4)
8位 長田有司(地2)
第80回日本学生陸上競技対校選手権（9月9日～11日）
走幅跳 3位 東孝一(体育4)
第48回関西学生陸上競技学年別選手権兼第33回関西学生混成選手権（10月25日～28日）
1年
1500m 6位 滝本達也(人1)、8位 安在良貴(体1)
400m H 3位 山本貴之(体1)
走高跳 1位 滝野大樹(体1)、5位 岡田貫(体1)
三段跳 3位 岩本健志(体1)
円盤投 2位 山本晋太郎(体1)
ハンマー投 3位 福角貴大(体1)
2年
400m 6位 松吉修平(体2)
110m H 3位 桐生大輝(体2)

走幅跳 1位 長田有司(地2)
2位 田中亮介(地2)、8位 瀬口真司(国2)
ハンマー投 2位 植原久貴(体2)、8位 川邊誠人(体2)
3・4年
400m 4位 長岡健太郎(重3)
走幅跳 1位 東孝一(体4)
三段跳 7位 永田晋也(体4)
やり投 8位 橋本悠平(体3)
共通
十種競技 2位 井口雅仁(体4)、8位 中村駿介(体3)

陸上競技部(女子)

第88回関西中学生陸上競技対校選手権(5月12日～15日)
総合 6位
フィールド 2位
走幅跳 2位 板垣瑛子(体4)、8位 辻江奈美(体3)
三段跳 2位 板垣瑛子(体4)、6位 梅本菜未(体4)
砲丸投 8位 増田たまみ(体1)
円盤投 1位 上坂真代(体4)
ハンマー投 3位 細田彩(体4)、6位 山田奈々未(体1)
やり投 6位 吉川麻里(体4)
七種競技 8位 狭川綾幸(体2)

第48回関西中学生陸上競技学年別選手権兼第33回関西学生混成選手権(10月25日～28日)

1・2年
100m H 6位 西川佳那(体2)
走幅跳 1位 柳依里(体2)、2位 吉田裕美(地2)
三段跳 4位 吉田裕美(地2)
砲丸投 8位 増田たまみ(体1)
ハンマー投 4位 山田奈々未(体1)
7位 増田たまみ(体1)
やり投 5位 小田茜(体2)、7位 須河綾乃(体1)
3・4年
走幅跳 1位 板垣瑛子(体4)、5位 辻江奈美(体3)
三段跳 1位 板垣瑛子(体4)、3位 梅本菜未(体4)
やり投 8位 森岡悠希(体3)
共通
七種競技 6位 狭川綾幸(体2)

体操競技部

第53回関西中学生体操競技選手権(4月16日～17日)
男子
団体 2位
個人総合 1位 森井裕樹(体2)
2位 久保田正也(欧米3)、5位 石橋裕也(体1)

ゆか 1位 森井裕樹(体2)
3位 小川修平(重3)、4位 久保田正也(欧米3)
あん馬 2位 久保田正也(欧米3)、3位 森井裕樹(体2)
つり輪 1位 森井裕樹(体2)、5位 久保田正也(欧米3)
6位 石橋裕也(体2)、6位 加藤拓平(欧米4)
跳馬 1位 森井裕樹(体2)、3位 小川修平(重3)
5位 石橋裕也(体2)、6位 久保田正也(欧米3)
平行棒 1位 石橋裕也(体2)、2位 森井裕樹(体2)
5位 久保田正也(欧米3)
鉄棒 1位 久保田正也(欧米3)、6位 石橋裕也(体2)
女子
団体 3位

第61回西日本学生体操競技選手権(4月23日～24日)

男子団体 8位
女子団体 4位

第65回全日本学生体操競技選手権(8月29日～31日)

男子団体 12位
女子団体 8位

第65回全日本体操競技団体・種目別選手権

跳馬 16位 森井裕樹(体2) (11月4日～6日)

レスリング部

明治杯全日本選抜選手権(4月29日～30日)

フリースタイル
-96kg級 ベスト8 福井裕士(体4)

西日本学生春季リーグ戦(5月21日～22日)

2部 2位
井川杯(2部敢闘賞) 福井裕士(体4)

西日本学生新人戦(7月2日～3日)

グレコローマン
-60kg級 3位 笠岡祐馬(地1)
-120kg級 1位 門垣太志(体2)

全日本学生選手権(8月29日～9月1日)

グレコローマン
-84kg級 3位 福井裕士(体4)
-120kg級 ベスト8 門垣太志(体2)

フリースタイル
-96kg級 ベスト8 福井裕士(体4)

国民体育大会(10月2日～5日)

フリースタイル
-96kg級 5位 福井裕士(体4)

西日本学生選手権(10月21日～23日)

フリースタイル
-96kg級 1位 福井裕士(体4)

西日本学生秋季リーグ戦(12月3日～4日)

2部 2位

井川杯(2部敢闘賞) 西村元(欧米3)

天皇杯全日本選手権(12月21日~23日)

フリースタイル

-96kg級 3位 福井裕士(体4)

サッカー部

第89回関西学生サッカーリーグ

(前期:4月7日~6月24日、後期:9月23日~11月18日)

2部Bブロック 5位 8勝4敗6分・勝点30

卓球部

第53回関西学生新人卓球大会(4月29日~5月1日)

男子団体 2位

春季関西学生卓球リーグ(5月7日~15日)

男子2部 1位(1部昇格)

女子2部 4位

2部校敢闘賞 丸山明彦(地2)

第78回全日本大学総合卓球選手権関西予選

(8月15日~16日)

女子シングル 5回戦進出(予選通過) 西村香里(歴3)

秋季関西学生卓球リーグ(8月26日~9月8日)

男子1部 6位、女子2部 3位

ソフトボール部

第43回春季関西学生ソフトボールリーグ 1部 6位

(4月9日~5月3日)

第43回秋季関西学生ソフトボールリーグ 1部 6位

(9月10日~10月2日)

創作ダンス部

第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル

(8月7日~10日)

神戸市長賞 作品名 「おもかげ~小泉八雲の世界~」

軟式野球部

西都大学軟式野球大会春季リーグ(4月~5月)

1部 2位 8勝2敗

西都大学軟式野球大会秋季リーグ(9月~10月)

1部 1位 7勝2敗1分

課外活動 文化系

E・S・S

飯降学長杯争奪英語弁論大会（6月28日）

ウエスタン

新入生歓迎会（5月11日）
新入生歓迎ライブ（5月22日）
定期演奏会（7月8日）
奈良県8大学合同ライブ（7月2日、3日）
奈良県8大学合同チャリティーライブ（6月4日）
定期演奏会（10月22日）
SUNRIGING NARA ROCK（奈良県8大学合同ライブ）
（9月18日～19日）
NARA SONIC'11（奈良県8大学合同野外ライブ）
（10月1日・2日）

映画研究

新入生歓迎会（6月6日）

音楽

夏季合宿（9月14日～16日）

雅楽

薬師寺まほろば塾での雅楽演奏（4月17日）
楽劇「保元物語」崇徳怨霊譚リハーサル（4月18日）
聖霊会舞楽大法要（4月22日）
楽劇「保元物語」崇徳怨霊譚（4月23日）
興福寺文殊会（4月25日）
平城遷都祭天平行列（4月29日）
薬師寺玄奘三蔵会大祭伎楽法要リハーサル（5月3日）
薬師寺最勝会（5月4日）
薬師寺玄奘三蔵会大祭伎楽法要（5月5日）
聖霊会講演会（5月14日）
国宝・東塔大修理着工法要（6月26日）
少年会員雅楽勉強会（8月16日～18日）
楽部の方をお招きしての講習会（8月30日、31日）
万葉蹴鞠演技における演奏（7月31日）
夏季合宿（8月9日～14日）
第22回海外親善訪問演奏旅行（9月6日～18日）
斑鳩雅楽フェスティバルリハーサル（9月22日）
斑鳩雅楽フェスティバル（9月23日）
鑑真和上（9月25日）
奈良女子高等学校第3回三敬会総会（10月1日）
第43回天理公演（10月25日）
世界園芸博覧会における雅楽演奏（10月8日～14日）
京都市伏見区保育士会新年例会（1月7日）
第31回大阪公演（3月10日）
斑鳩小学校におけるワークショップ（2月10日）
第37回東京公演（3月18日）
春一番!! 雅楽コンサート（3月4日）
東日本大震災被災地慰霊・慰問巡回公演
（3月13日～16日）
雅楽部創立60周年記念式典・祝賀会（3月25日）

卒部生歓送会・新旧幹部交代式（3月21日）

華道

華道教室（5月30日～5月31日）

競技ダンス

春季関西学生競技ダンス選手権大会（4月24日）
大阪府ダンスフェスティバル（5月1日）
正式新入生歓迎会（6月15日）
西日本ラテン選手権（6月12日）
全関西学生競技ダンス選手権大会（6月26日）
夏の全日本学生競技ダンス選手権大会（7月3日）
シャドー戦（7月10日）
前期合宿（8月8日）
後期合宿（8月29日）
阪関戦（大阪大学関西大学対抗戦）（9月11日）
同立戦（同志社大学立命館大学対抗戦）（9月19日）
幹部交代式（10月21日）
秋の京都大学競技ダンス部内戦（10月2日）
関西学生競技ダンス学年別選手権大会（10月9日）
東西対抗学生競技ダンス選手権大会（10月30日）
秋季西日本学生競技ダンス選手権（10月16日）
秋季関西学生競技ダンス選手権大会ラテン戦（11月27日）
秋季関西学生競技ダンス選手権大会モダン戦（11月20日）
冬の全日本競技ダンス選手権大会（12月4日～5日）
冬の京大部内戦（2月11日）
春合宿（2月20日～25日）
関西学生競技ダンス二部選手権大会（3月17日）

軽音楽

桜まつり（4月3日）
チャリティーコンサート（4月3日）
ジャズフェスティバルパフォーマンスライブ（4月29日）
大阪城ジャズフェスティバル（5月7日～5月8日）
新入生歓迎会（5月21日）
がちゃがちゃポップフェスティバル（5月28日）
京都・龍谷・天理大学ジョイントライブ（6月5日）
奈良医科大学・奈良女子大学ジョイントライブ
（6月25日）
HOSチャリティーライブ（7月2日）
立命館大学とのジョイントライブ（7月16日）
川原城地蔵尊夏まつり（7月22日）
夏のこどもおぢばがえり合宿、バラエティ174出演
（7月24日～8月5日）
山野ビックバンドジャズコンテスト出場、合宿
（8月10日～16日）
海合宿（8月29日～31日）
甲南大学NPジャズオーケストラとのジョイントライブ
（9月25日）
スウィングジャズクルーズ（10月2日）
大阪大学NWジャズオーケストラとのジョイントライブ
（10月15日）
第40回ALSジャズオーケストラリサイタル（10月22日）

課外活動 文化系

天理教青年会前夜祭 (10月26日)
三和住宅グループ友の会ふれあい祭 (11月3日)
てくてくてんり「秋」ウォーキングフェスタ2011
(11月12日)

4大学ジョイントライブ (11月20日)
親と子の音楽会 (12月3日)
クリスマスコンサート (12月18日)
二名小学校PTA音楽鑑賞会 (2月8日)

サイクリング

第2回鈴鹿8時間エンデューロ春SP (5月28日)
サイクリング部新入生歓迎会 (5月24日)
奈良サイクリング (5月26日)
徳島合宿 (8月25日~27日)
徳島合宿 (9月14日~16日)
明日香サイクリング (10月29日)
平成24年度幹部交代式 (12月23日)
宇陀エリア サイクルイベント (3月10日)

茶 道

茶風月茶会 (6月20日)
炬開き茶会 (11月14日)
初釜茶会 (1月22日)
送別茶会 (3月11日)

写 真

写真部展 (7月25日・26日)
伊勢撮影旅行 (2月20日)

書 道

展覧会 (4月11日~13日)
展示会 (7月4日~7月8日)

スカウティング同好会

夏期合同訓練 (8月19日~21日)

スキー同好会

スキー同好会合宿 (12月26日~30日)

美 術

7月展 (7月5日、13日)

フォークソング同好会

新入生歓迎ライブ (4月22日)
アコギライブ (6月25日)
定期演奏会 (7月23日)
夏合宿 (9月15日~19日)

邦 楽

ミニコンサート (6月10日)
定期演奏会合宿 (11月18日・19日)
定期演奏会 (12月11日)

防犯パトローズ隊

自転車盗難防止キャンペーン (9月14日)
自転車盗難防止キャンペーン (10月17日、12月21日)
第2回少年警察大学生ボランティア研修会
(10月1日、6月1日)
幹部交代式 (2月23日)
居場所づくり (3月3日)
天理市防災フェアへの参加 (3月11日)

ボランティアサークル

大マンモス会 (5月29日)

ユースホステル

仁尾先生を囲む会・新入生歓迎会 (5月20日)

■会員の動き、活躍

○飯降政彦学長の講演を関東地区会員が聴講

11月29日神奈川教務支庁で開催された神奈川県宗教連盟主催（後援：神奈川県）第70回宗教文化講座で飯降学長が、「心の時代」をテーマに講演。国内外で、政治的、宗教的、社会的紛争が頻発する一方、他方で東日本大震災など大規模な自然災害も起きている。これら問題の解決や対処に今ほど「心の真実」が求められている時代はないと話された。関東地区の会員18人が聴講した。

（神奈川支部理事 谷）



○全米ジュニア大会で初の総合優勝に導く

ハワイ伝道庁が運営するハワイ天理柔道クラブはテキサス州アーバイン市で行われた「全米柔道ジュニアオリンピック大会」で金11個、銀2個、銅3個のメダルを獲得し、出場106チーム中、最も優秀な成績を収め、初の総合優勝に輝いた。

母校柔道部OBで道場開設当初から35年にわたりチームを指導する総師範の鳥海浩さん（大24体）は、「伝道庁の方々をはじめ、皆さんの支えのおかげで年々チーム力が充実し、互いに切磋琢磨し合う環境ができています。いつの日か道場からオリンピックのアメリカ代表選手を送り出せば」と話している。（『天理時報』より）

○ATP賞ドラマ部門 優秀賞

脚本家の久松真一さん（大32仏）は、ATP（社）全日本テレビ番組製作社連盟）が主催する「ATP賞テレビグランプリ2011」のドラマ部門で優秀賞を受賞した。

同賞は、制作会社のプロデューサーやディレクターが審査委員となって優秀なテレビ番組を選出し、その中から年間の最優秀作品を決めるもの。審査対象となった『再生巨流』は、作家・楡周

平氏の同名小説を映像化したもの。物流業界に生きる男たちの挫折と再生を描いた社会派ヒューマンドラマで、衛星放送のWOWOWで放送され、好評を博した。（『天理時報』より）

○関東5支部で雅楽部定期公演を鑑賞

3月18日東京浅草公会堂にて母校雅楽部の第37回東京公演が催され、関東5支部（東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城）の呼びかけにより、ふるさと会関係者約140人が来場した。これは、ふるさと会活動の一環として、大学OBとして雅楽部を応援することと、会員はもとより教外の友人らにも呼びかけて母校のPRをするために行っている。

演目は「相思千十年・源氏物語XI」一須磨・明石の巻より一をテーマに、伎楽、管弦、舞楽、催馬楽の4部で上演され、奈良平安朝文化を彷彿とさせる真剣な上演に魅了させられた。佐藤浩司顧問をはじめ雅楽部員の日ごろの研鑽の賜物である。同部は母校OBの誇りでもある。終了後に「素晴らしかった」「また誘ってください」などの声が聞かれた。今後も教外の方にも広く知ってもらおうべくPRしていきたい。（東京支部評議員 中平）



■叙 勲

○外交官として40年

本会会員の池田徳次さん（大8朝）は、40年にわたる外交領事事務の功労をたたえられ、「瑞宝小綬章」を受章した。（『天理時報』より）

■訃 報

○西和田ヤスハ常任理事を偲んで



今年も豊井ふるさと寮の桜は見事な花びらをつけて人々の目を楽しませ、心を満たしてくれました。その1カ月前の3月2日、こよなく愛され



た寮の桜を愛でることなく先生はお出直しになりました。享年90歳、静かなお出直しでした。

昭和38年6月、豊井ふるさと寮長として東京より着任され、平成16年4月、ふるさと会館竣工祝賀会の翌日、ご退職なされました。寮長としてのお務めの傍ら、ふるさと会役員として41年間務められた先生に相応しいご退職の日柄であったと思います。私は、先生の支部総会などへのご出席にお伴をさせていただくことがよくありました。その折り、会に関する貴重なお話を種々聞かせて頂きました。東京在住の頃、二代真柱様からふるさと会の会合を要請され、会社勤めの傍ら開催に向けて一所懸命尽力されたこと、ふるさと会50周年記念事業として海外研修基金を創設する際、会員である教会本部の先生方や大教会長様方のもとへ直接出向き、寄付をお願いされたこと、各支部の設立に関わられたこと、70周年事業のふるさと会館竣工に至るまでの道のりなど。そのひとつひとつのお話や事柄が心に残っています。

先生はいつも私に、「ふるさと会の御用は仕事と思って務めなさい」と仰いました。これは、先生ご自身が実践してこられたことにほかなりません。卒寮した大勢の教え子たちは、何か事あるごとに先生の許へ帰って来て人生の指針を仰ぎ、たすけて頂きました。その1人ひとりにはふるさと会員なので、先生は支部総会へ出向かれる際は必ず彼女らに連絡しておられました。卒業生への年賀状の数を聞いただけでも頭が下がる思いでした。ご高齢になられてもその姿勢は変わりませんでした。ご自身の同窓会「十八会」も毎年開催、世話人を務めてこられました。『ふるさと会報』の挿絵もその旬々のテーマを考えては描いてこられました。

ふるさと会とともに歩んでこられた先生は、ゆるぎない信念、母校愛、卒業生としての誇りをかたく守り通されました。先生の心の奥底には二代真柱様の思召に答えさせて頂きたいというあつい思いがあったと思います。私は西和田ヤスハ先生を恩師として戴いたことの意味を思う時、ふるさと会や寮での立場の後継だけでなく、人として、何事にも覚悟を持って取り組まれたその姿勢を受け継がせて頂くつもりです。

先生、今後もお見守りお導き下さいますよう、お願い申し上げます。ありがとうございました。

(ふるさと会副会長 宮原美沙子 記)

○中島秀夫先生を偲んで

天理教学の確立に心を砕かれたご生涯

中島秀夫先生（天理大学名誉教授）は、平成23年7月3日お出直しになられました。享年85歳でした。先生はやさしく温厚なお人柄で、天理大学宗教学科と天理教校本科、また天理看護学院において、この道の後継者を数多く育てられました。天理大学では、学校本部の理事をはじめ、文学部長や初代人間学部長などの重責を担われ、またおやさつ研究所の主任も務められました。さらに日本宗教学会や印度学宗教学会の理事などの要職も務められました。

東北大学で宗教哲学を学ばれた中島先生は、天理教学の確立に心を砕かれ、『おさしづ研究』や『総説天理教学』など、天理教学の著作を数多く出版されました。大学では、宗教学と天理教学の講義を担当されましたが、特に天理教教義学の講義において、信仰の喜びを深めるために教理を理解することの重要性を強調されました。天理教学研究の態度として、絶えず謙虚であることの大切さを語られたことが、心に強く残っております。

(澤井義次 宗教学科教授 記)

○静岡支部長 小池 聡様

平成元年より静岡支部長をお務めくださいました小池聡様（大5国）が、平成24年2月14日、お出直しになられました。

○前滋賀支部長 安井正彦様

平成14年4月より平成20年7月まで滋賀支部長をお務めくださいました安井正彦様（語22中2）が、平成24年1月20日、お出直しになられました。

○天理大学名誉教授 西谷真治先生

平成24年1月20日にお出直しになりました。

享年87歳。母校で昭和35年4月から平成10年3月まで勤められました。

故人のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。